

## LibreOffice Base マニュアル(実践編)

### ～目次～

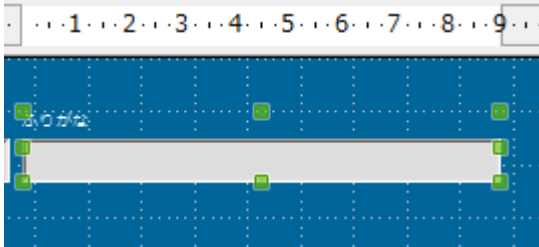
ページ

1.	<a href="#">コントロールのグループ化を解除するには?</a> .....	1
2.	<a href="#">リストボックスの設定方法</a> .....	2
3.	<a href="#">既にサブフォームがあるフォームに、さらにサブフォームを追加する</a> .....	6
4.	<a href="#">ウィザードを使わないでサブフォームを作るには?</a> .....	10
5.	<a href="#">日付をカレンダーで入力するには?</a> .....	15
6.	<a href="#">レコード移動ボタンを作成するには?</a> .....	16
7.	<a href="#">レコード移動後に特定のコントロールにフォーカスさせるには?</a> .....	18
8.	<a href="#">ヒントテキストを表示するには?</a> .....	22
9.	<a href="#">テーブルのフィールドタイプをオートナンバー型でセットするには?</a> .....	22
10.	<a href="#">Access のデータ型との対比表(HSQLDB を使った場合)</a> .....	23
11.	<a href="#">レポート機能の違いを把握します</a> .....	23
12.	<a href="#">レポートビルダーで作成したレポート画面を確認します</a> .....	24
13.	<a href="#">フォントサイズの変更がレポートに反映されていないのですが?</a> .....	24
14.	<a href="#">ヘッダーやフッターのページ数表示が正しく表示されないのですが?</a> .....	26
15.	<a href="#">クエリーに計算式をセットするには?</a> .....	27
16.	<a href="#">クエリーで集計するには?</a> .....	27
17.	<a href="#">クエリー内で文字列を結合するには?(Access では&amp;で結合していた件)</a> .....	28
18.	<a href="#">ファイルを開くと同時に特定のフォームを起動させるには?</a> .....	29
19.	<a href="#">ボタンクリックでフォームを開く(閉じる)には?</a> .....	30
20.	<a href="#">ボタンクリックでレポートを開くには?</a> .....	30
21.	<a href="#">変更内容を保存してファイルを閉じるには?</a> .....	31
22.	<a href="#">テーブルやクエリーのデータを文字化けせずに Calc へ出力するには?</a> .....	32
23.	<a href="#">xls ファイルをリンクテーブルとして利用するには?</a> .....	33
24.	<a href="#">フォームに入力された値をパラメーターとしてクエリーに反映させるには?</a> .....	36

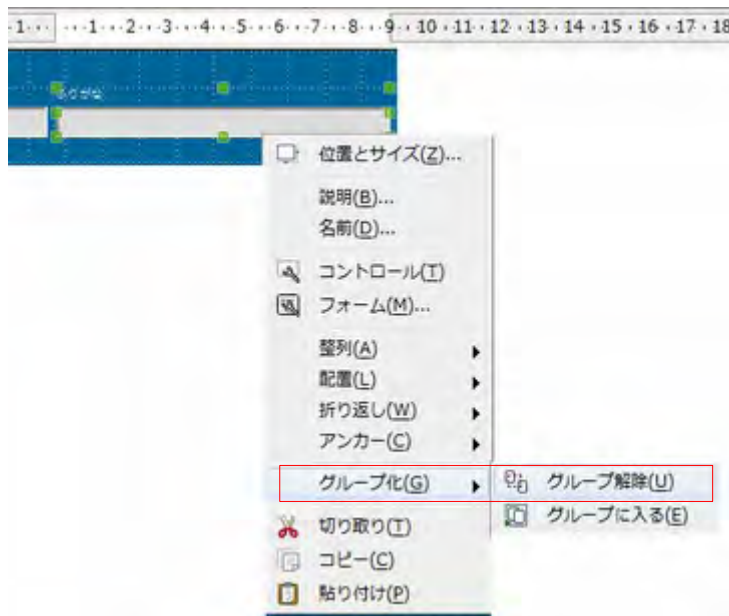
## 1. コントロールのグループ化を解除するには？

Base のデフォルトフォームではタイトルとコントロールがグループ化されています。

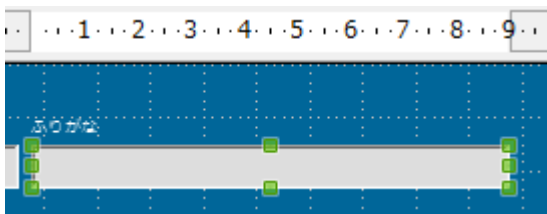
テキストボックス等コントロール単体のプロパティを変更する際は事前にグループ化を解除する必要があります。



ふりがな (タイトル)と  
テキストボックスがグループ化されている



右クリック → グループ化  
→ グループ解除

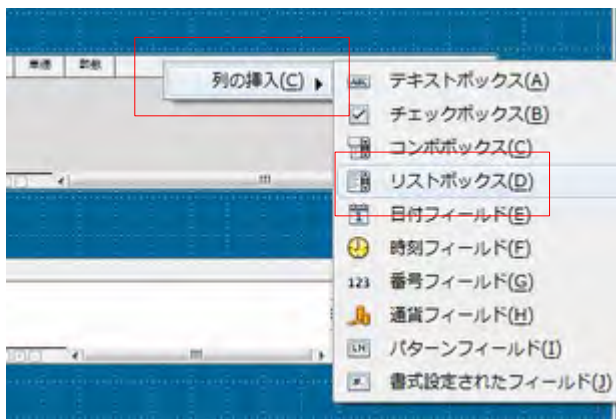


テキストボックスだけを選択できました

## 2. リストボックスの設定方法

Access のフォームで利用するコンボボックスと同様な機能は、リストボックスを使うと便利です。サブフォーム内にリストボックスを設定してみます。

サブフォームの空項目欄を右クリックし「列の挿入」を選択、右のウィンドウからリストボックスを選びます。



- ① 空項目欄で右クリック
- ② 列の挿入を選択
- ③ リストボックスを選択

属性を開いて該当するタブを選択し、テーブルの値をセットしていきます

属性 リストボックス

全般 データ イベント

名前..... リストボックス 1

タイトル..... 決済方法

アクティブにする..... はい

読み取り専用..... いいえ

マウスホイールによるスクロール..... しない

種.....

リストの項目.....

配置.....

行数.....

標準選択範囲.....

追加情報.....

ヘルプテキスト.....

URL ヘルプ.....

属性 リストボックス

全般 データ イベント

データフィールド..... 決済方法

入力が必要..... はい

リスト内容の種類..... Sql

リストの内容..... "SELECT "決済方法CD","決済方法"

関連あるフィールド..... 1

項目名(タイトル名)

データタブを選択

戻り値を入れる相手先

SQL を選択

リスト内容になる SQL 文

リストの何列目を戻り値として返すか?をセット (左から順に 01234 となる)

この例では1を指定しているのでリストの2列目が戻り値になります

※0列から指定する点に注意!

リストの内容..... クエリー画面を呼び出す場合はココをクリックします

上記の設定でリストボックスを表示してみると

単価	部数	決済方法
1200	2	
1000	1	
1000	1	0
1350	1	1
1500	1	3
		4
		5
		9

「コード」ではなく、ココには「決済方法」が表示されてほしい

SQLの並び順を修正します(例:「決済方法 CD」と「決済方法」を入れ替えました)

MT\_決済方法

決済方法 CD  
決済方法

フィールド	決済方法 CD	決済方法
エイリアス		
テーブル	MT_決済方法	MT_決済方法
並び替え		
表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
開放		
条件		
あるいは		



MT\_決済方法

決済方法 CD  
決済方法

フィールド	決済方法	決済方法 CD
エイリアス		
テーブル	MT_決済方法	MT_決済方法
並び替え		
表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
開放		
条件		
あるいは		

SQLで「決済方法」欄を0列目に移動

単価	部数	決済方法
1200	2	
1000	1	
1000	1	0
1350	1	1
1500	1	3
		4
		5
		9

「決済方法」が表示されるようになりました

書籍名	単価	部数	決済方法
日経パソコン	1200	2	0
日経IT 2 1	1000	1	1
実務で使え	1000	1	3
導入からみ	1350	1	5
日経パソコン	1000	2	
日経ネット	1500	1	
日経ネット	1500	1	

テーブルには戻り値としてコードが入力されています

## 【リストボックスのまとめ】

データフィールド・・・戻り値を格納するテーブルのフィールド名を指定

リスト内容の種類・・・テーブル値でもSqlにする方が良い(項目名で選択したい場合はSQLにして順番調整する必要がある為)。前ページ「[SQLの並び順を修正します](#)」参照

リストの内容・・・作成したSELECT文が登録される

関連あるフィールド・・・SQL文のどの列を値として返すのか?を指定(左から01234となる)

リストには左から1番目の列の値(列番号0の値)が表示されるようです。

したがって選択リストは決済方法を表示し、コード値を戻り値とする場合はSQL文で0列めに決済方法、1列めに戻り値となるコードがセットされるSQL文とする必要があります。(左から0列・1列となる点に注意)。

そして関連フィールドには2列目の決済コードをセットするので1をセットすることになります(見た目は2列目だが1を指定する点に注意!)

リスト列は左から01234~になっている(0スタートである点に注意)

リストに表示される列は0列目である必要がある

戻り値を格納するテーブルのフィールドは「データフィールド」で指定する

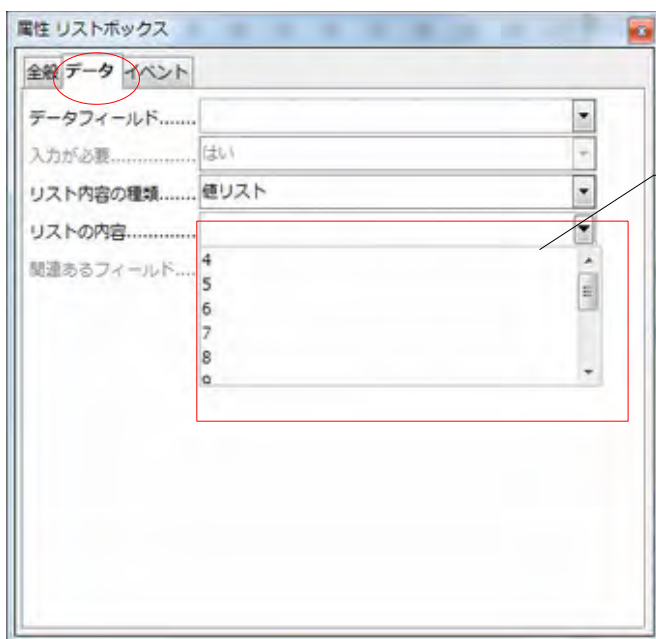
戻り値は「関連あるフィールド」で任意指定できる

「関連あるフィールド」の列はSQLの列順を0から指定する

リストボックスに直接値を設定する場合は?

リストボックスに直接値を設定するリストデータ登録にはちょっとしたコツが必要です。

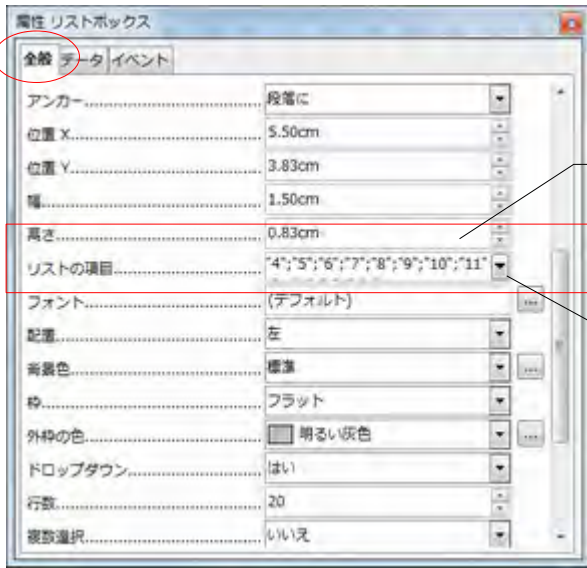
選択リストで表示させたいデータを「データ」タブの「リストの内容」に登録したくなりますが、ここには実際に反映させるデータを登録するところなので注意します。



ココに登録したくなりがち!

ココに登録してもリスト表示されないので混乱します。

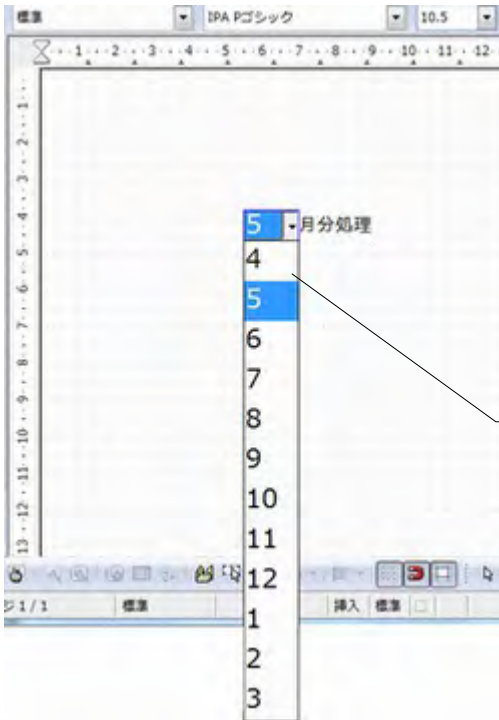
ココは選択後にテーブルに反映させる値を登録するところなので、リストは「全般」タブの「リストの項目」欄に登録する必要があります。



ココに登録します!

▼をクリックしてリスト入力欄を表示し  
SHIFT+ENTER キーで!改行します

リストの区切り文字は;です。  
 手で入力するのではなく「Shift + Enter」で改行することで自動入力されます。  
 Shift キーを押したまま Enter キーを入れる点に注意してください



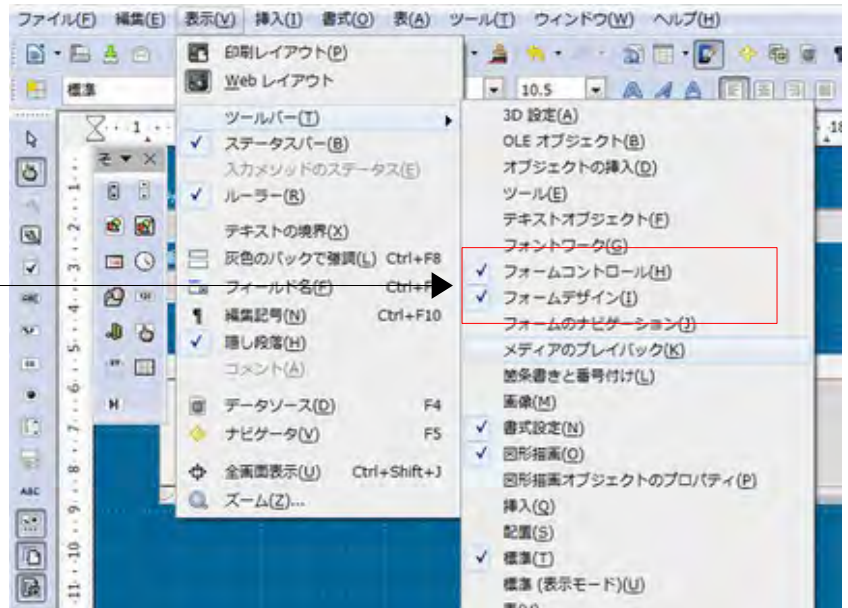
リストが表示されました

### 3. 既にサブフォームがあるフォームに、さらにサブフォームを追加する

サブフォームはウィザードでセット可能ですが、さらにもう一つサブフォームを追加する際は手作業で行います。

コントロールボタンを表示します  
メニュー → 表示 → ツールバー

フォームコントロールとフォームデザインに  
チェックが入っていることを確認します



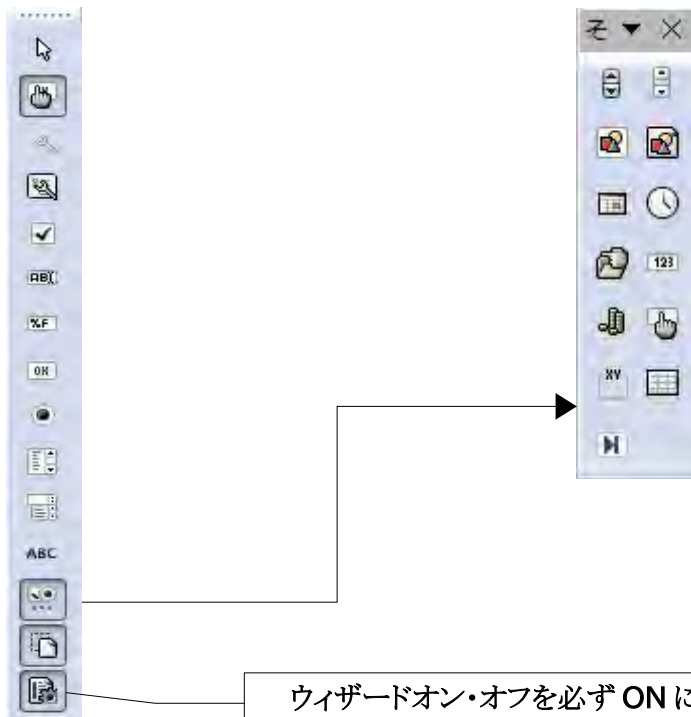
フォームコントロール

フォームナビゲーター



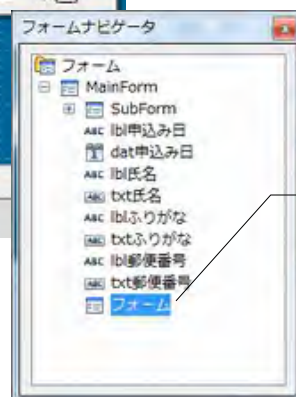
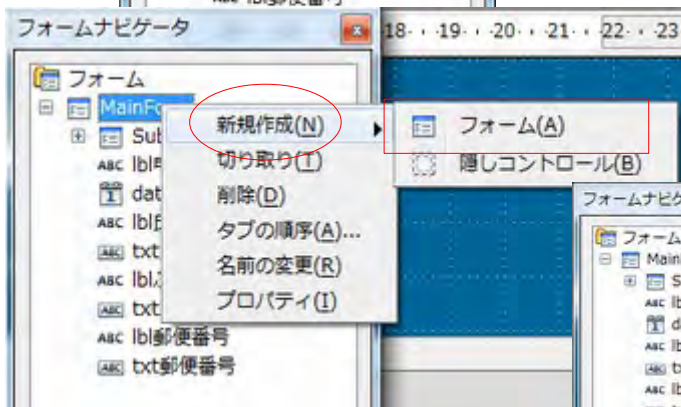
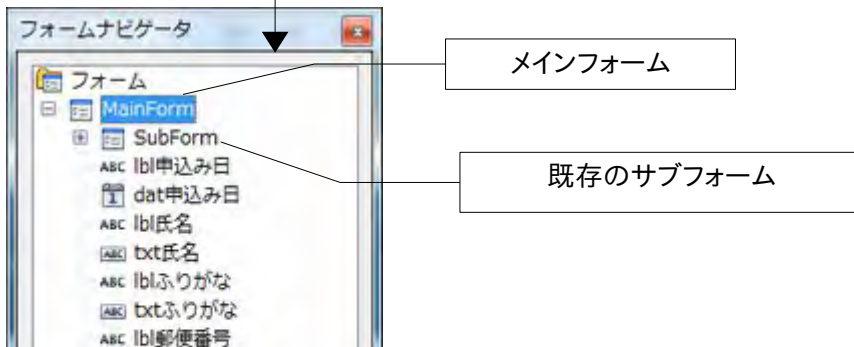
フォームデザイン

その他のコントロール



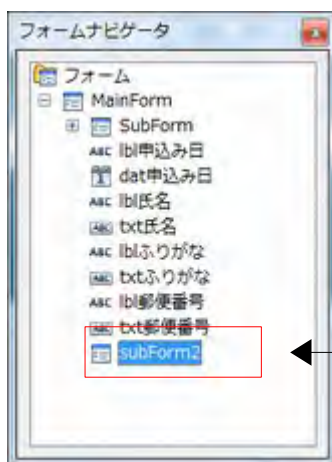
ウィザードオン・オフを必ず ON にします

フォームナビゲーターを起動します



① サブフォームを挿入するメインフォームを選択した状態で右クリック

② 新規作成 → フォームを選びます



フォーム名を判りやすい名前に変更します(例:subForm2)  
サブフォームが選択された状態(名前が黒地になっている)でフォームコントロールの「その他のコントロールを表示」を選んで表示します



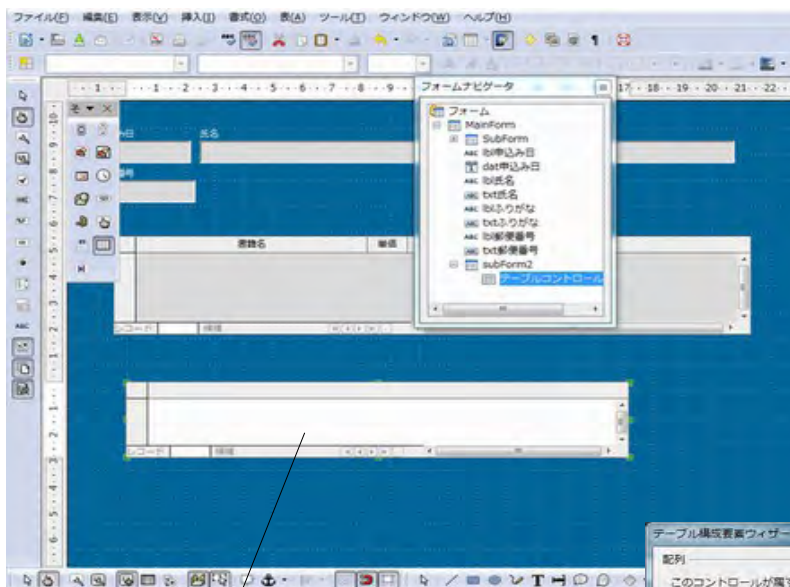
ココからの作業ではウィザードのオン・オフボタンがオンになっていることが必要です(前ページ参照)



その他のコントロールからテーブルコントロールを選び  
サブフォームを挿入したいところでドラッグし描画します

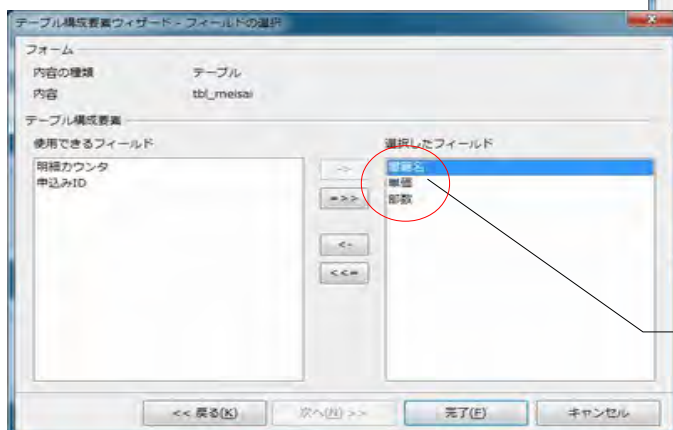
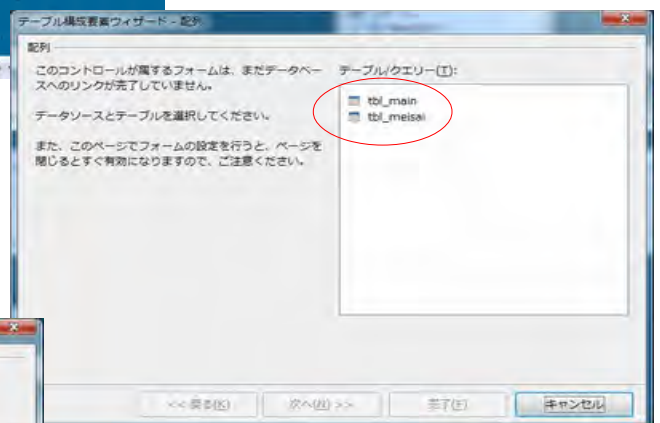


① テーブルコントロール  
を選びます



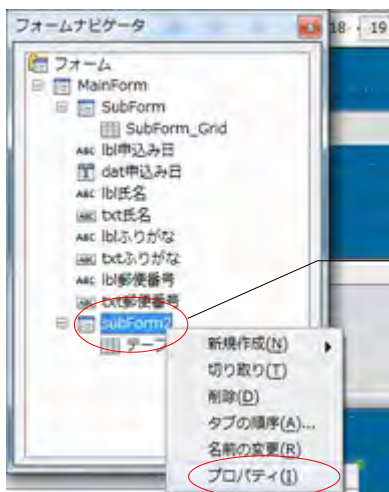
③ 描画後、ウィザードが起動します  
のでフォームに表示するテー  
ブル/クエリーを指定します

② 描画します



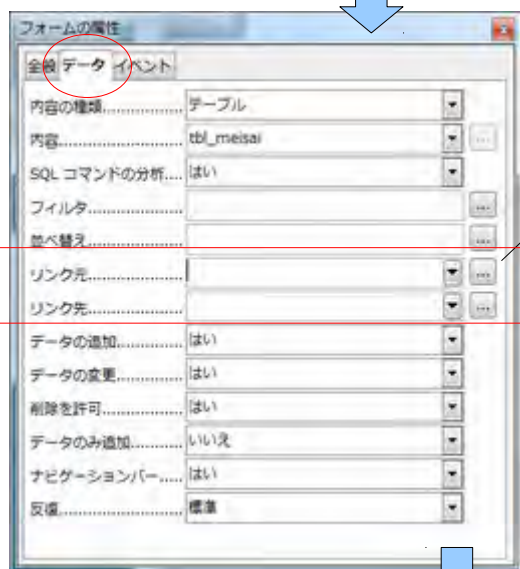
フォームに表示する項目  
(フィールド)が選択されました

この状態では、メインフォームと連動していません  
フォームナビゲータから、追加されたサブフォームを選択します



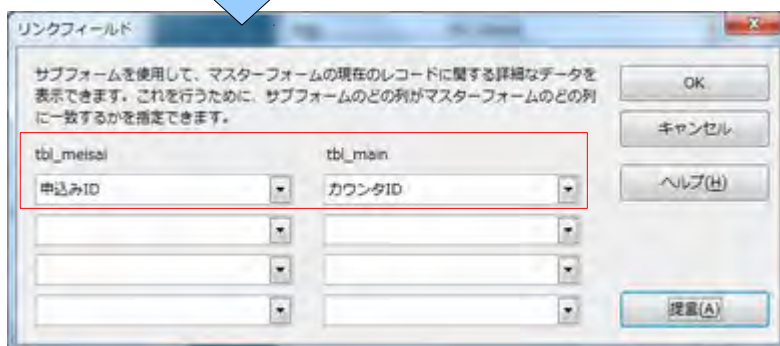
右クリック→プロパティ(フォームの属性)を表示します(すでにプロパティが表示されているとプロパティは表示されません)  
フォームの属性画面 → データタブ → リンク元・リンク先  
を選択します

追加されたサブフォームを選択します



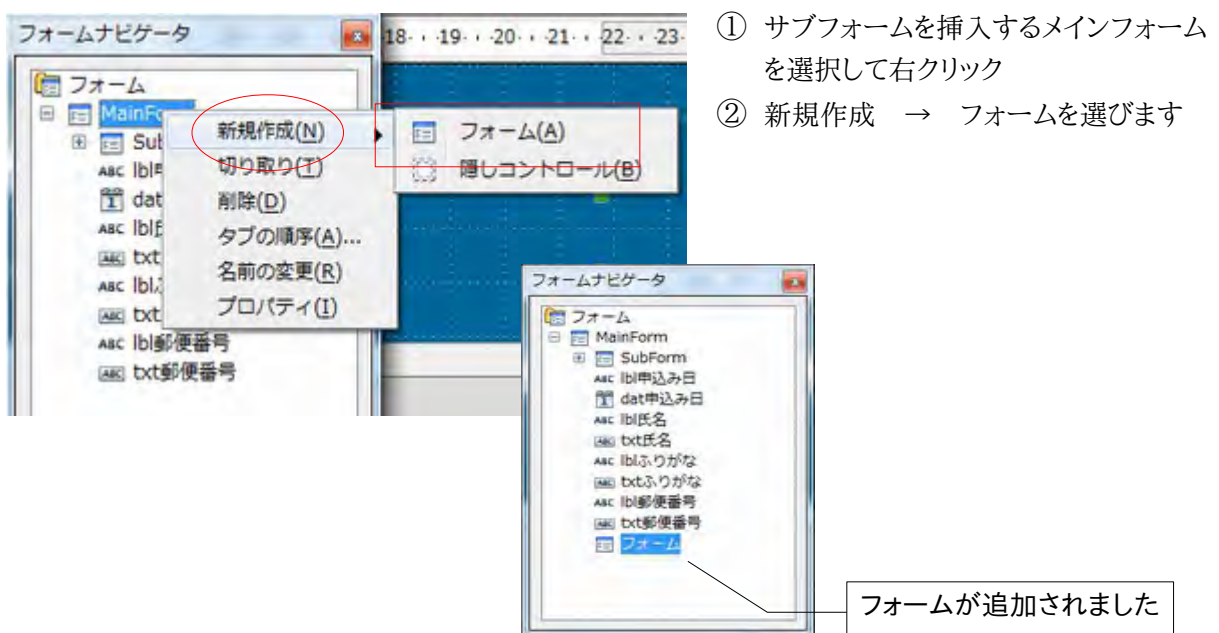
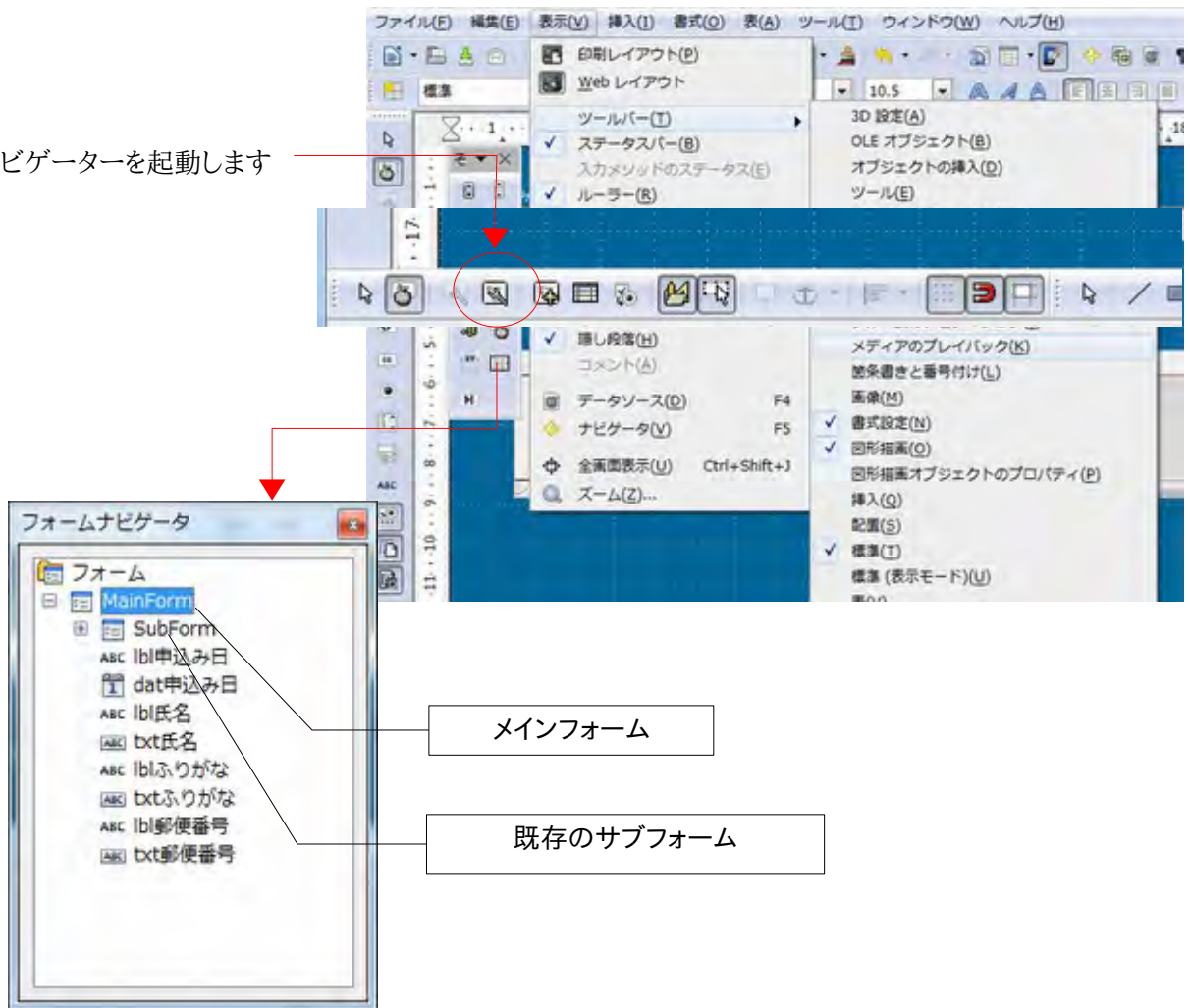
リンク元とリンク先を指定します

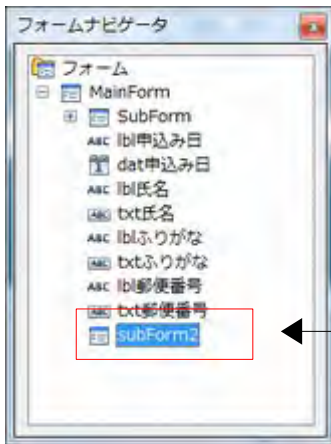
▼を選んで何も表示されない時は、▼横の□  
ボタンをクリックすると設定画面が表示されます



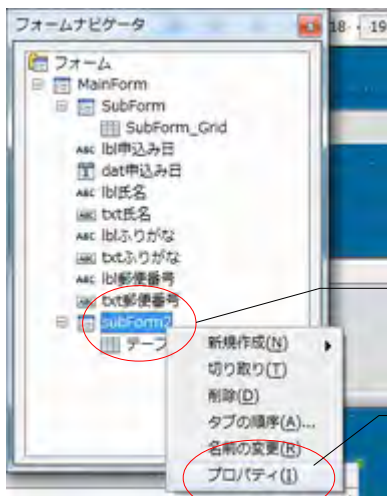
#### 4. ウィザードを使わないでサブフォームを作るには？

フォームナビゲーターを起動します





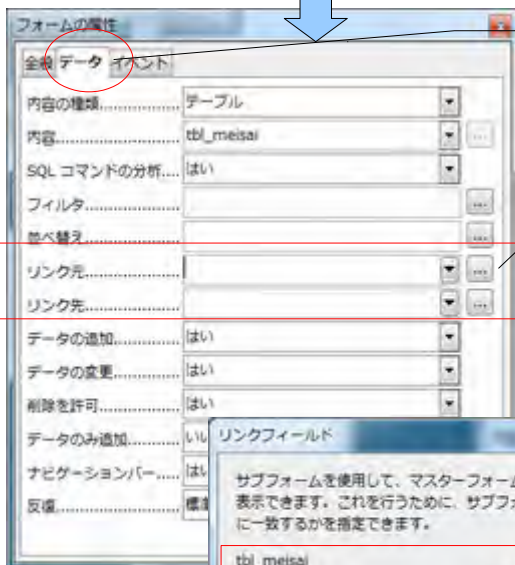
フォーム名を判りやすい名前に変更します



親フォームと連動していませんので先にリンクを設定します  
 フォームナビゲータから追加されたサブフォームを選びます  
 右クリック→プロパティ(フォームの属性)を表示します(既に何かプロパティ画面が表示されていると表示されませんので注意!)  
 プロパティ画面(フォームの属性) → データタブ → リンク元・リンク先を選択します

① 追加されたサブフォームを選択し右クリック

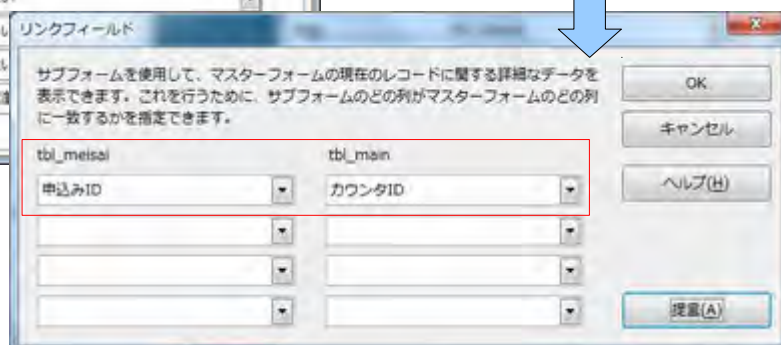
② プロパティを選択

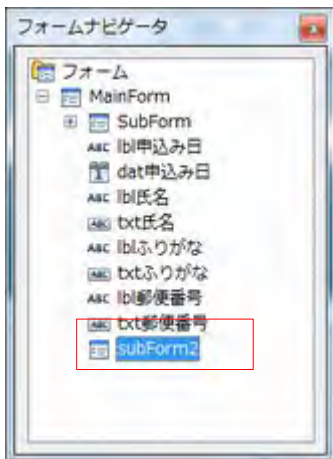


③ データタブを選択

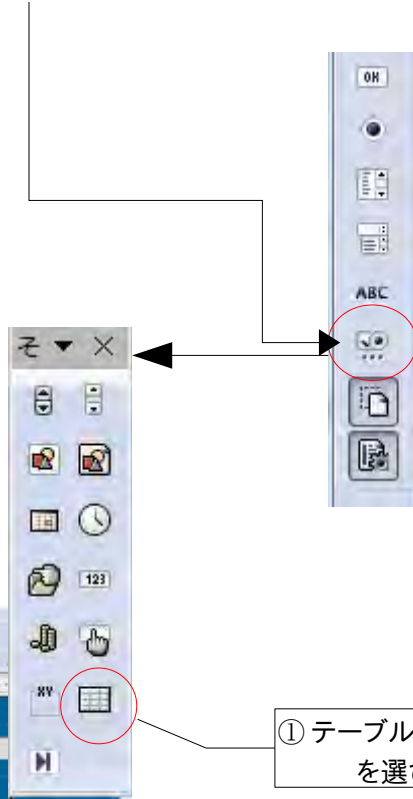
④ リンク元とリンク先を指定します

▼を選んで何も表示されない時は、横のボタンをクリックすると設定画面が表示されます。

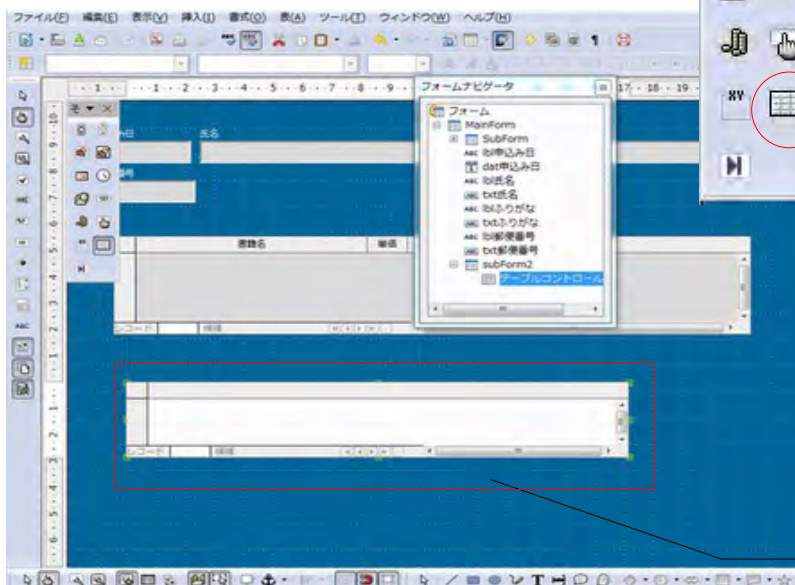




サブフォームが選択された状態(名前が黒地になっている)でフォームコントロールの「その他のコントロールを表示」を選んで表示します

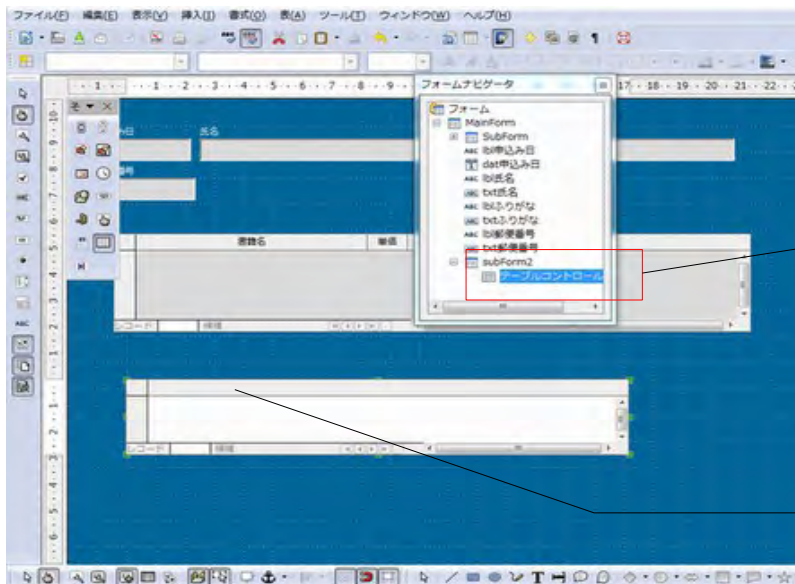


その他のコントロールからテーブルコントロールを選びサブフォームを挿入したいところでドラッグし描画します



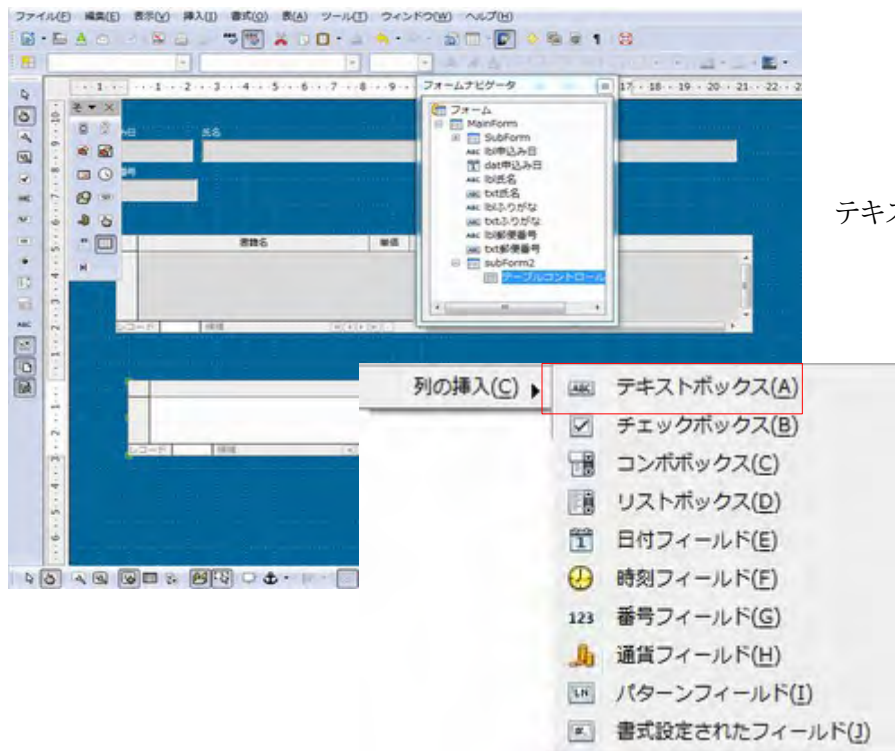
① テーブルコントロールを選びます

② 描画します



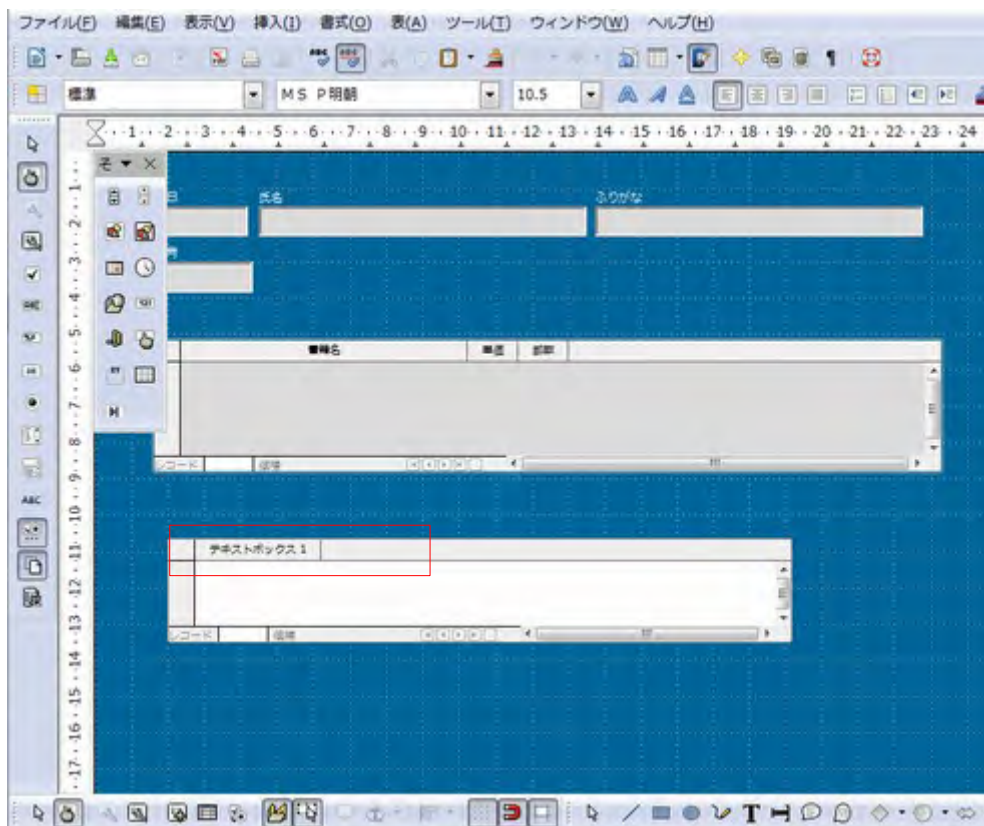
※テーブルコントロールが選択された状態を確認

③ 項目枠を右クリック  
↓  
列の挿入



テキストボックスを選択した例

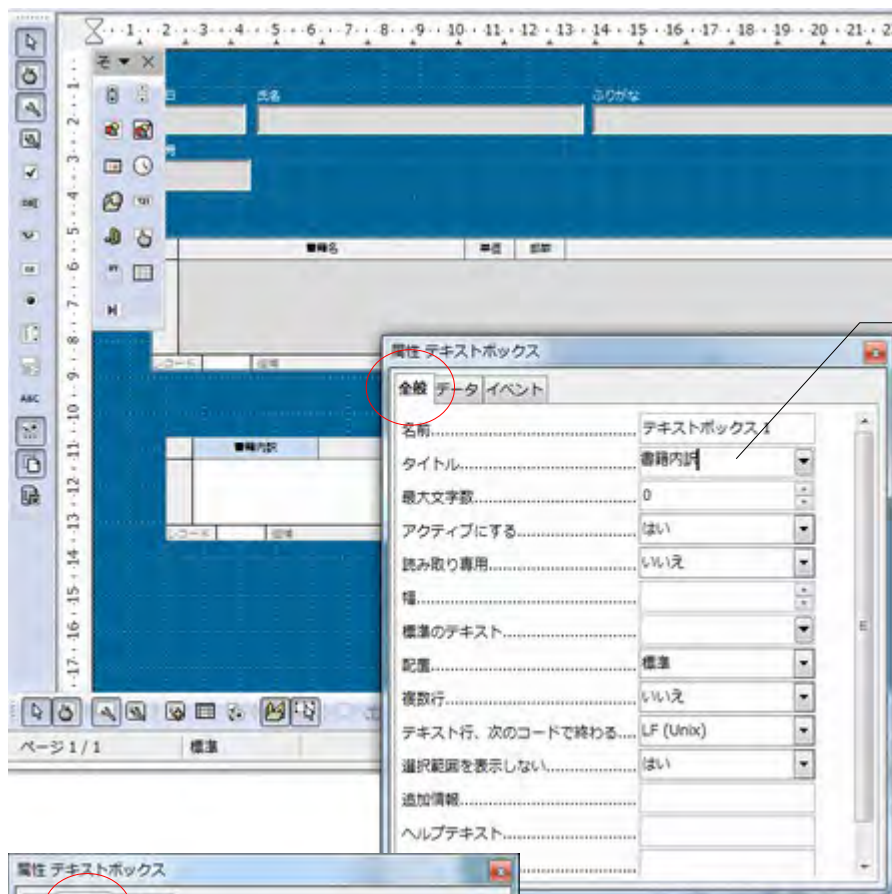
項目に「テキストボックス1」が作成されました



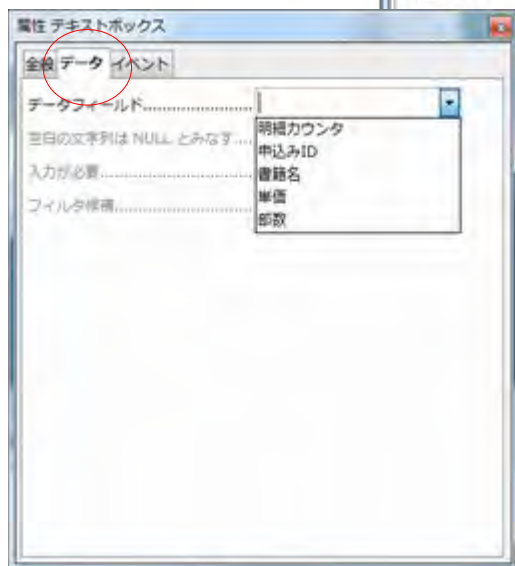
テキストボックスのタイトル設定や連結テーブル項目の選択を行います

右クリック → 列

テキストボックスの属性が表示されるので「全般タブ」で名前やタイトルを任意名に変更し「データタブ」で連結するテーブルを選択することができます



タイトルを「書籍内訳」に変更しました



連結するテーブルはデータタブで選択します

## 5. 日付をカレンダーで入力するには？

Access でよく利用されていたカレンダーコントロールは Base でも簡単にセットすることができます。

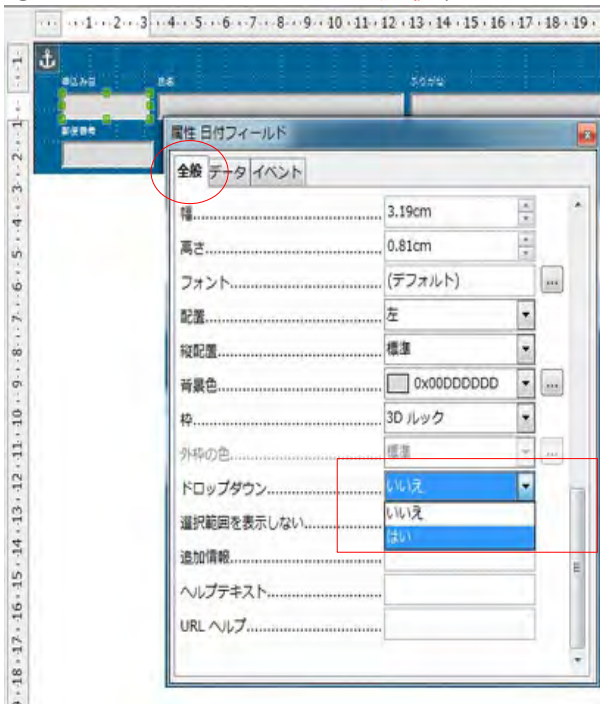
申込日をカレンダーコントロールから入力できるように変更してみます。

### ① グループ化を解除します



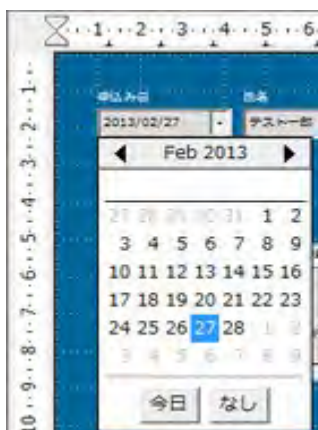
デフォルトではタイトルとテキストボックスがグループ化されていますので解除します。  
選択 → 右クリック → グループ解除

### ② テキストボックスを選択後、右クリックしコントロールを表示させます



全般タブ  
↓  
ドロップダウン  
↓  
はい

※ 追加情報  
テキストボックスではなく日付フィールドコントロールで描画した場合は日付テーブル非連結でもドロップダウン→ハイが選択可能なようです(カレンダーが使えました)  
日付フィールドは「その他のコントロールを表示」から選択できます!



▼をクリックすると  
カレンダーコントロールが表示されました

※すでに日付が入力されている場合は、その日付時点のカレンダーが表示されます

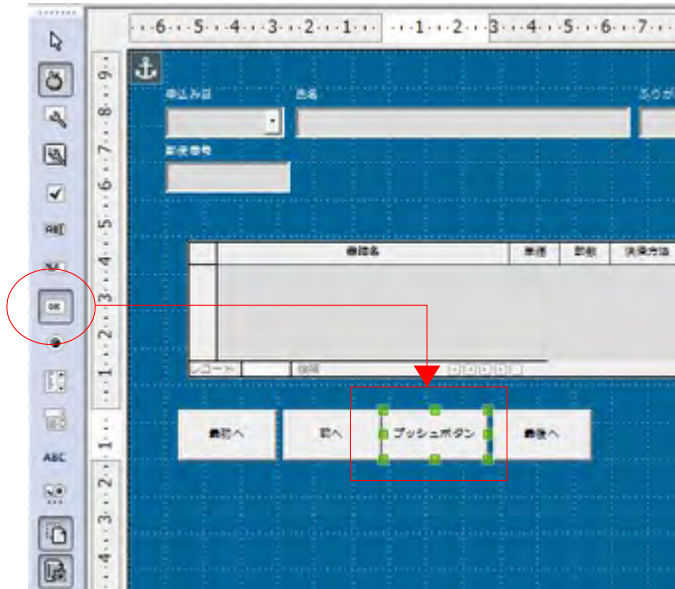
←カレンダーは日付型テーブル項目との連結フォームまたは「日付フィールド」の必要がありますので注意してください。



## 6. レコード移動ボタンを作成するには？

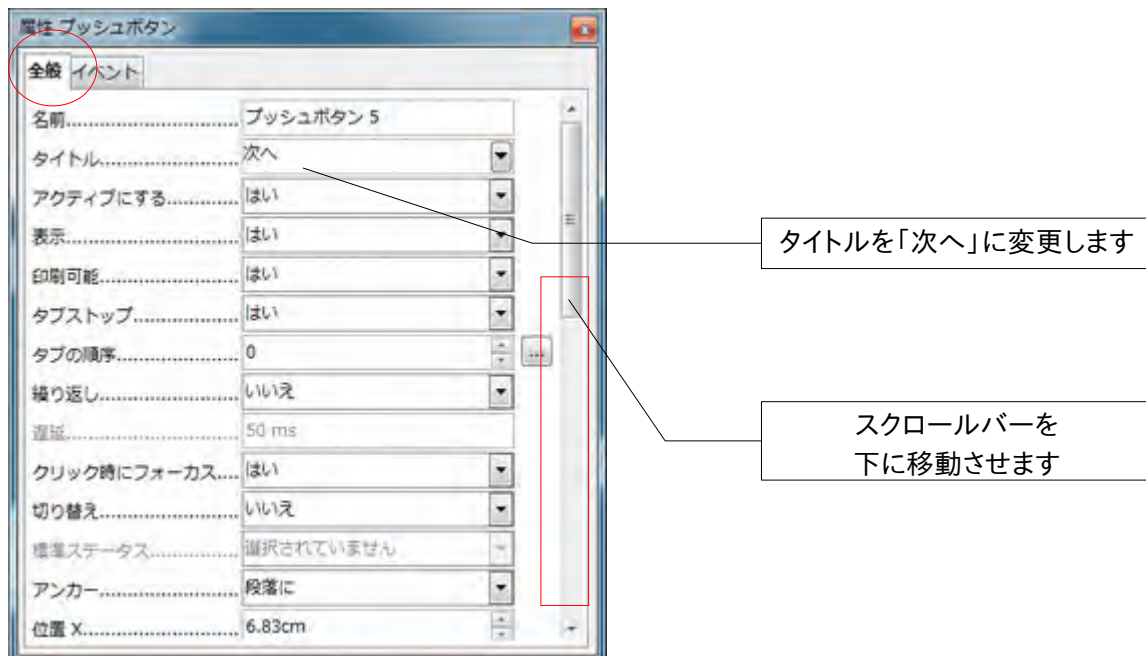
フォームに表示するレコード移動ボタンを簡単に作成することができます。

① フォームデザインから「ボタン」を選択しフォーム上に描画します

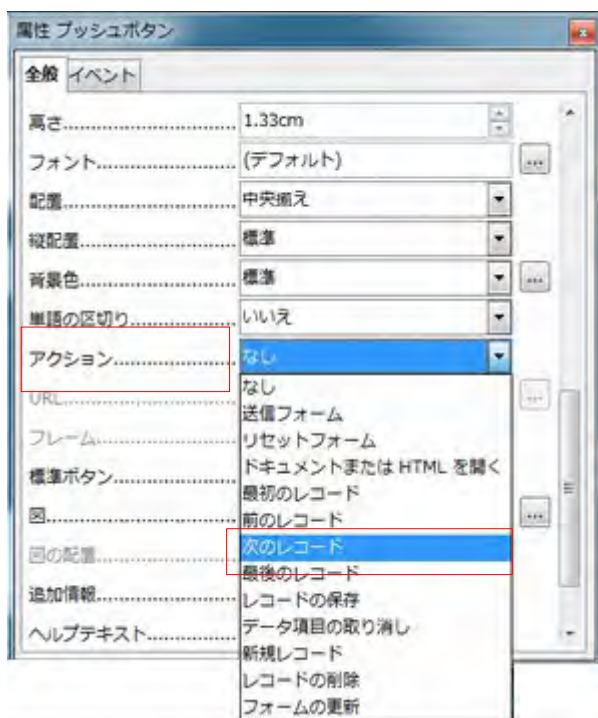


この例では「次のレコード」へ移動するボタンを作成します

② 描画された「プッシュボタン」を右クリック→コントロールを表示→全般タブを選択します



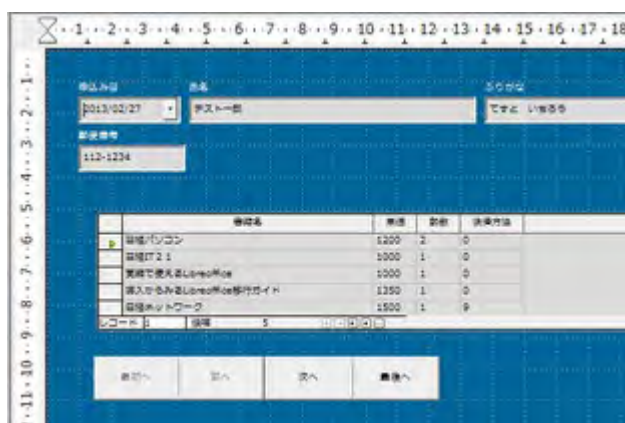
③ 「アクション」項目まで移動し「次のレコード」を選択します



同じ手順を実施し「最初のレコード」「最後のレコード」「前のレコード」を作成します



レコード移動ボタンを作成できました



レコード位置によってボタンの有効・無効を判断してくれるようです

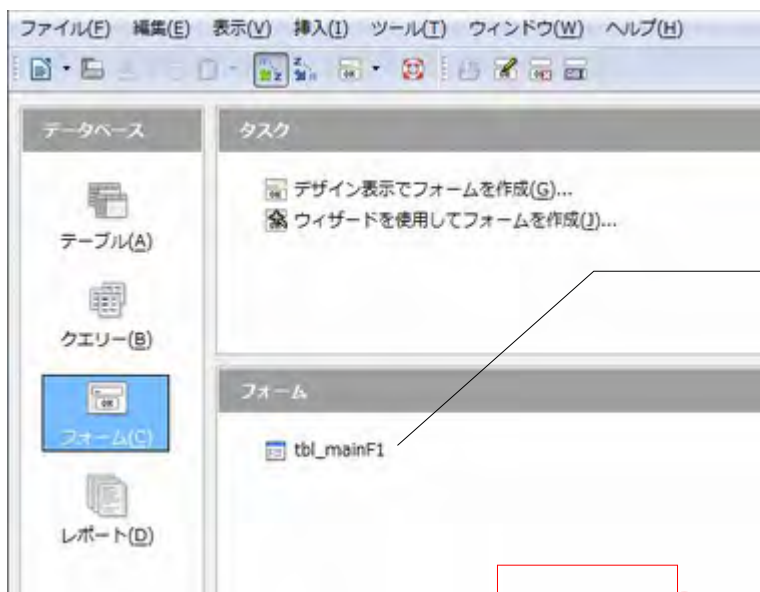
## 7. レコード移動後に特定のコントロールにフォーカスさせるには？

レコードの移動や更新時など、次のレコードへ移動するときに特定のコントロールにフォーカスを移動させることができます。

例では 6 で作成したレコード移動ボタンの「マウスのボタンを離した時」イベントにフォーカスを設定するマクロをセットすることで実現しています。

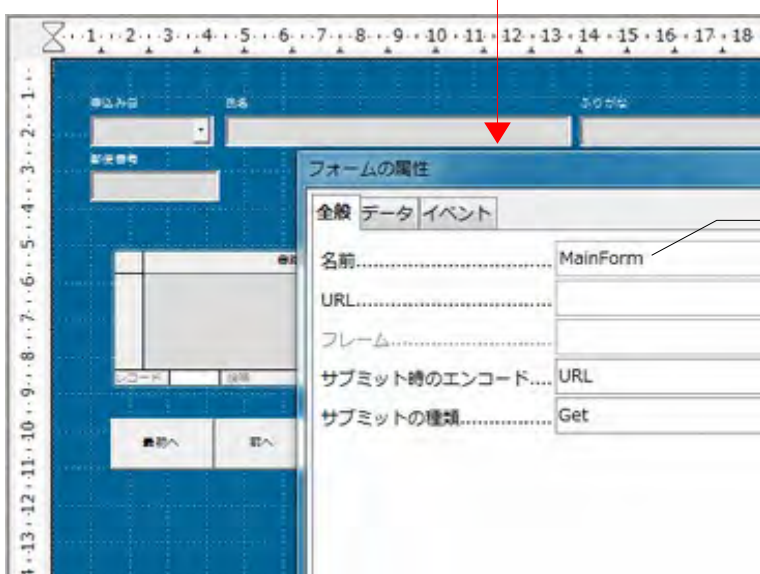
例) セットするフォーム名: tbl\_mainF1      フォーカスセットする項目名: dat 申込み日  
Access の場合、フォーム名は1つだけでしたが Base の場合は呼び名と本名の 2 つを正しく使い分ける必要があります。

**注意!** 見かけのフォーム名(呼び名)とフォーム名(本名)の違いに注意が必要です!



この名前は  
見かけのフォーム名(呼び名)

フォームを編集モードで開き  
フォームボタンをクリックします

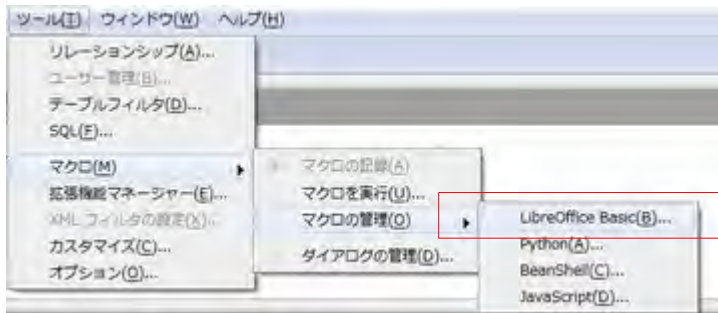


この名前が  
フォーム名(本名)

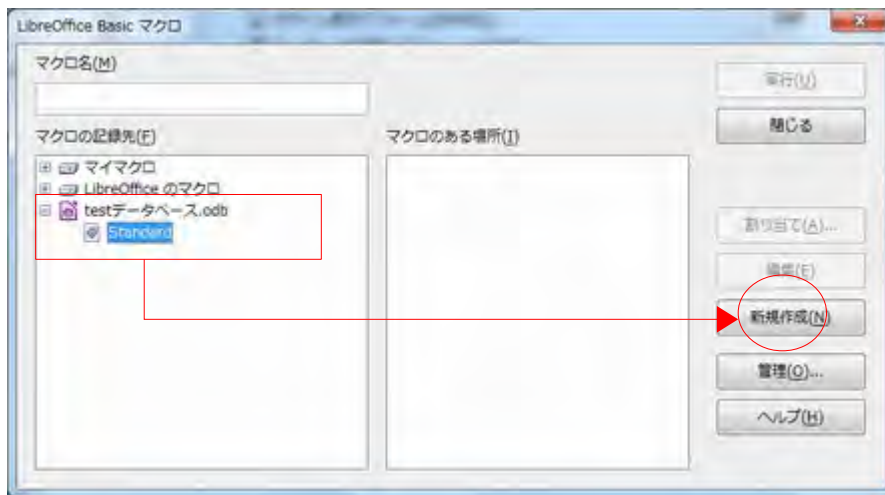
マクロ(Libre\_Basic 等)で指定する際のフォーム名は本名を使います。

① Odb ファイルにマクロを登録します

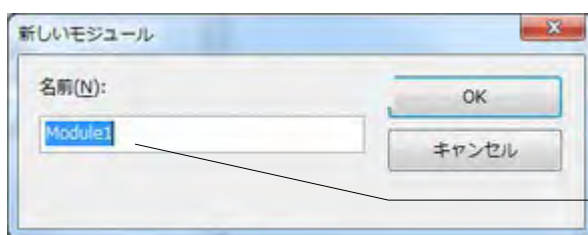
メニュー → ツール → マクロ → マクロの管理 → LibreOffice Basic の順に選択します



データベースファイル → 「Standard」を選択した後、新規作成ボタンをクリックします



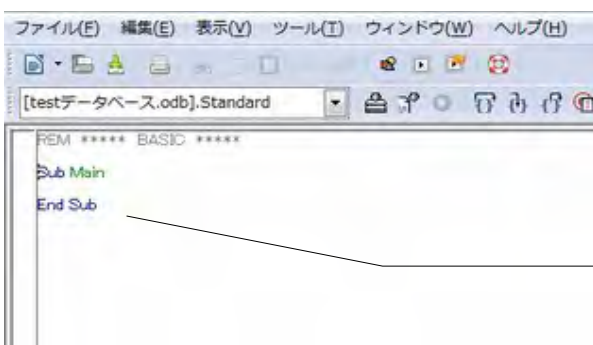
新規モジュールを作成するダイアログが表示されますので OK をクリックします



◎ 既にモジュールが登録済の場合は、既存のモジュール内に追記することも可能です

モジュール名は任意設定も可能です

モジュール記述画面が表示されますので、ここにマクロモジュールを記述します



記述例が表示されます

② マクロを記述します

'記述するマクロ

'##### 開始行 #####

Sub Focuscontrol

oDoc = ThisComponent

oForm = oDoc.getDrawPage().getForms().getByName("MainForm")

oTxtControl = oDoc.getCurrentController().getControl(oForm.getByName("dat 申込み日"))

oTxtControl.setFocus()

End sub

'##### 終了行 #####

↓ ##### マクロの解説 #####

Sub Focuscontrol

getByName("MainForm")

getByName("dat 申込み日"))

マクロの名前 (Focuscontrol がマクロ名になります)

フォーカスを操作するフォームの **本名**

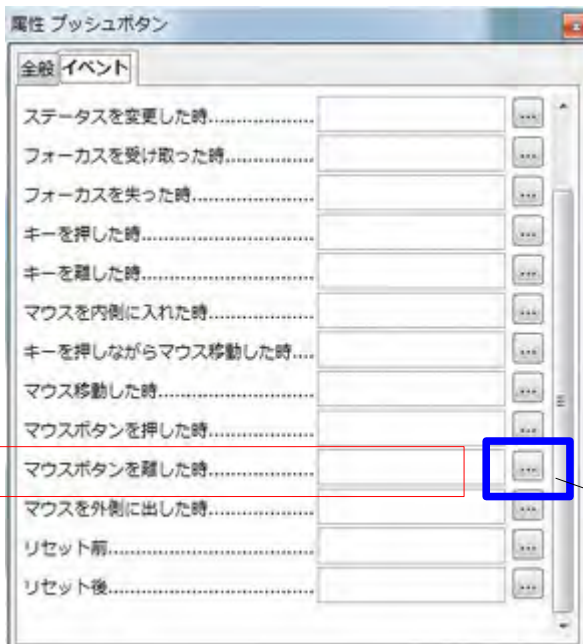
フォーカスをセットするコントロール名

③ イベントにマクロを割り当てます



次へボタンにマクロを割り当て、次へボタンがクリックされたら次のレコードへ移動した後、フォーカスが申込日に移動するようにします。

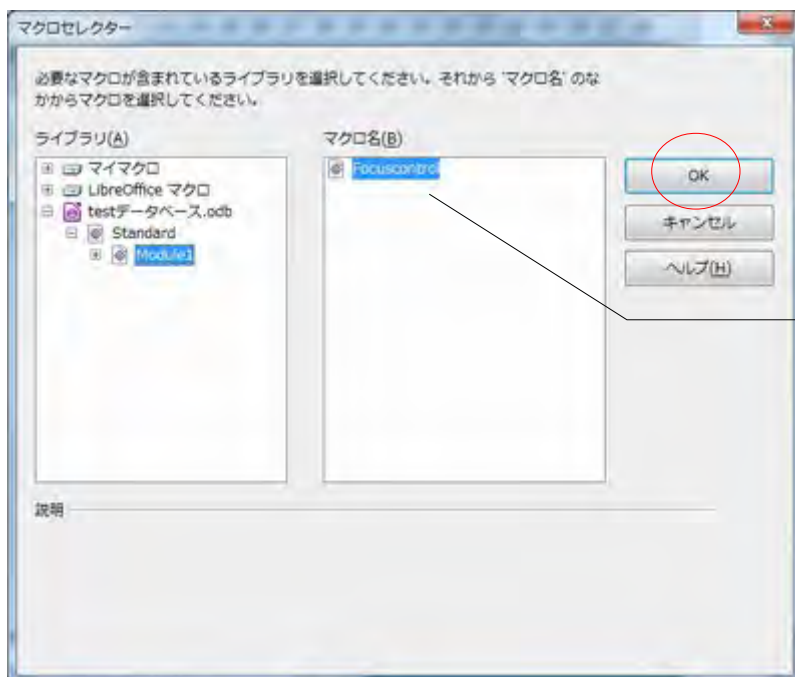
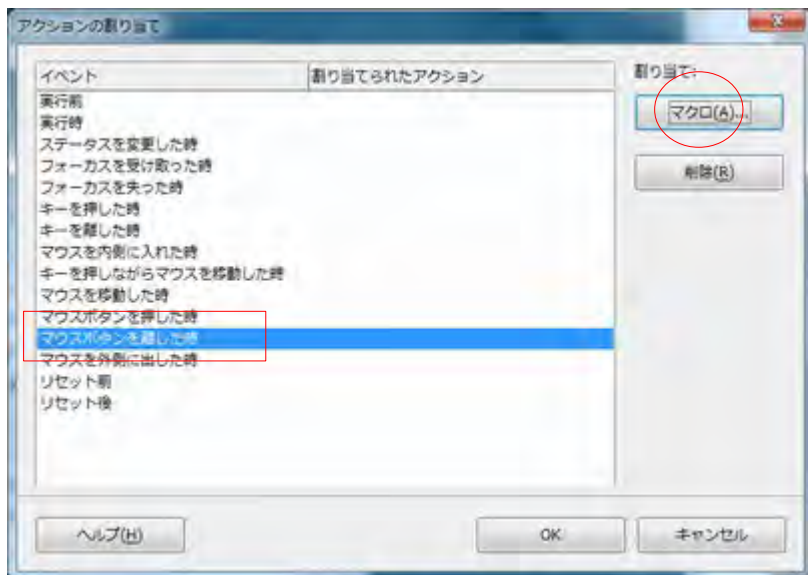
次へボタンを右クリックしコントロールを選択



通常、クリック時に稼働してほしいマクロは「実行時」イベントにセットしますが、「次へ」ボタンには次のレコードへ移動するアクションが設定済ですので、「マウスボタンを離した時」イベントにフォーカスコントロールマクロをセットします。

ボタンをクリックします

アクションの割り当て画面で「マウスボタンを離した時」になっていることを確認し「マクロ」をクリックします。



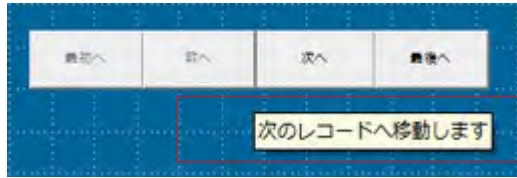
OK ボタンをクリックして完了します。

## 8. ヒントテキストを表示するには？

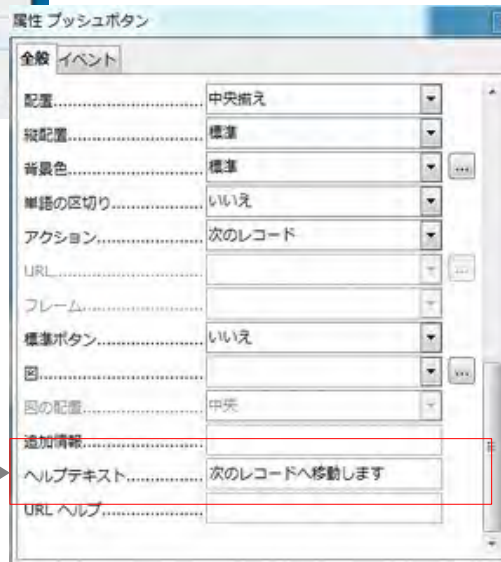
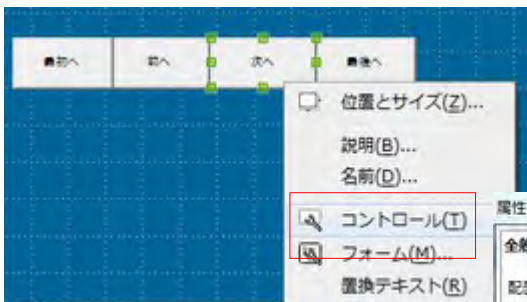
フォームのボタン上にカーソルを移動させた際にヒントテキストを表示させる方法です。

Access: ヒントテキスト

Base: ヘルプテキスト



カーソルがボタン上に来ると  
メッセージが表示される



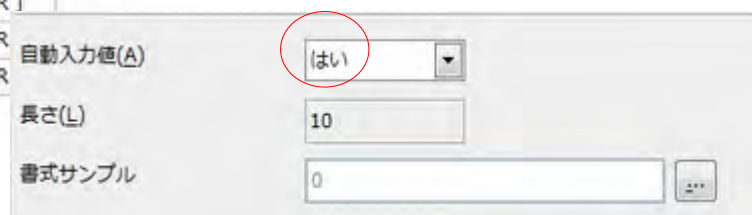
ヘルプテキスト欄に記述します

## 9. テーブルのフィールドタイプをオートナンバー型でセットするには？

テーブルデザイン画面を開いて

フィールド名	フィールドタイプ
カウンタID	整数 [ INTEGER ]
申込み日	日付 [ DATE ]
氏名	テキスト [ VARCHAR ]
ふりがな	テキスト [ VARCHAR ]
郵便番号	テキスト [ VARCHAR ]

フィールドタイプで「整数」か「長整数」を選び  
下段の自動入力値 (A) を「はい」にします



## 10. Access のデータ型との対比表をまとめてみました(HSQLDB を使った場合)

Access のデータ型(mdb)	Base のフィールドタイプ
テキスト型	テキスト(VARCHAR)
メモ型	メモ(LONGVARCHAR)
バイト型	最短整数(TINYINT)
整数型	短整数(SMALLINT)
長整数型	整数(INTEGER) 長整数(BIGINT)
単精度浮動小数点型	実数(REAL)
倍精度浮動小数点型	倍精度浮動小数点(DOUBLE)
日付/時刻型	日付(DATE)/時刻(TIME) 日付時刻の時は(TIMESTAMP)
通貨型	倍精度浮動小数点(DOUBLE)
オートナンバー型	整数(INTEGER) 長整数(BIGINT)
YES/NO 型	はい/いいえ(BOOLEAN)
OLE オブジェクト型	なし
ハイパーリンク	なし

※INTEGERについては Basic 変数で使う Integer の範囲と混同しないように注意します  
Basic マクロ変数での Integer 範囲:-32768~32767 の整数  
データ型 INTEGER 範囲:-2147483648 ~ 2147483647 の整数  
INTEGER 型では不足する場合に BIGINT 型を利用する運用を行います

※使用するデータベースに呼応したデータ型が表示されるようです

## 11. レポート機能の違いを把握します

Access のレポートは Access のレポート作成機能を使って作成から表示までを行います。  
Base のレポートは Base のレポート機能を使って作成し、Writer で表示と印刷を行います  
(Calc にも出力可能です)

「読み取り専用」で Writer/Calc の各アプリケーションが起動します

LibreOffice の Base でレポート作成する際にはレポートビルダーが起動します  
レポートビルダーで作成したレポートを Writer や Calc に出力します



## 12. レポートビルダーで作成したレポート画面を確認します



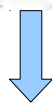
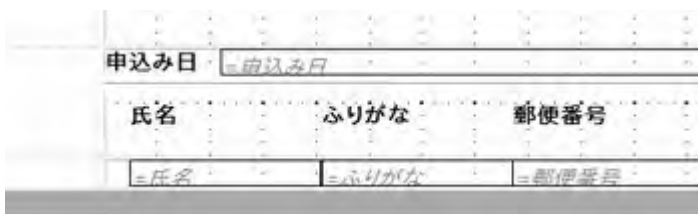
- ページヘッダー/ページフッター/グループ化ヘッダーフッター → Accessと同じです
- レポートヘッダー/フッターも設定可能です。編集 → レポートヘッダー/フッターの挿入
- 重複項目の非表示も可能
- 縦線・横線を描画しても表示されませんでした (Ver3.x系のバグとのことです: 4.0系もダメでした)
- Accessでレポートを作成する要領とほとんど同じ手順で作業できるようです
- 項目名を修正する場合、Accessの場合であれば項目をWクリックで修正できましたが、Baseの場合はプロパティ表示後タイトル欄を修正する必要があります
- ヘッダー・フッターに日付・時刻・ページ数をメニューから挿入可能です (デフォルトでは正しく表示されない(手修正が必要))
- 各オブジェクト(テキストボックスやラベルなど)を複数選択する際にはSHIFTキーを押したまま選択します (Accessと同じです)。範囲指定による複数一括選択はできません

## 13. フォントサイズの変更がレポートに反映されていないのですが?

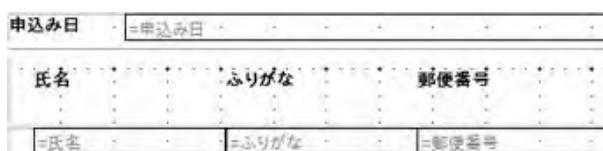
レポートビルダーでは、フォント(種類やサイズ)を変更した場合に表示上は変更されていてもレポートを実行すると反映されていない場合があります。

画面上ではなく別途プロパティ画面でフォントを変更する必要があります

フォント(IPA Pゴシック:サイズ9)に変更します



フォントサイズが小さくなっているのがわかります

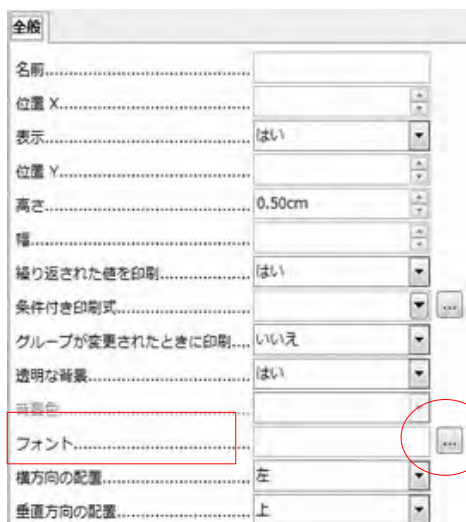


これでOKと思っていたら...

申込み日 2月27日

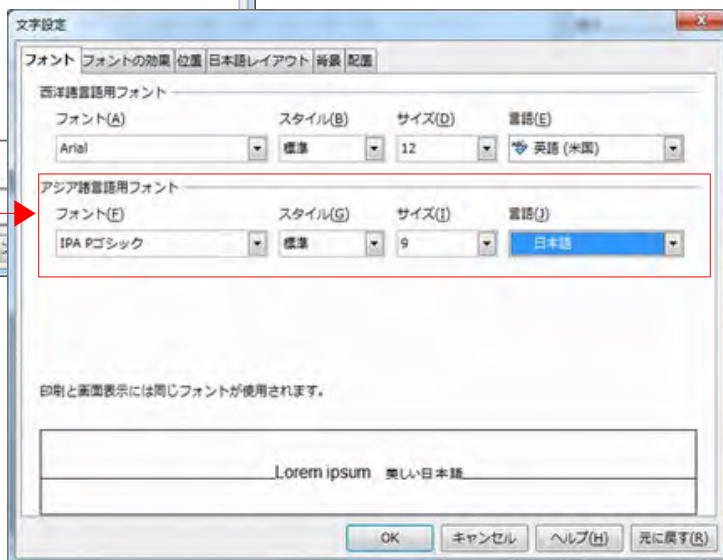
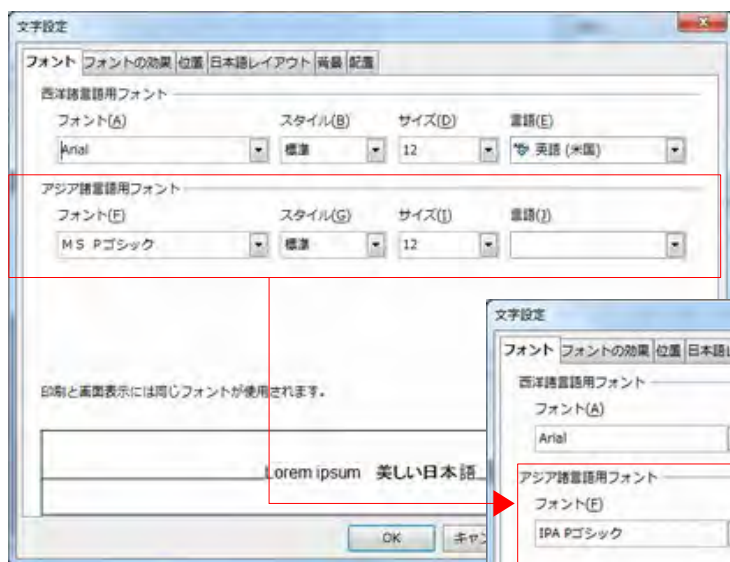
氏名	ふりがな	郵便番号
テスト一郎	てすと いちろう	112-1234
テスト一郎	てすと いちろう	112-1234
テスト一郎	てすと いちろう	112-1234
テスト一郎	てすと いちろう	112-1234
テスト一郎	てすと いちろう	112-1234

レポート実行してみるとフォントサイズが変化していません。  
(数字や英字は変化しているようですが……)



プロパティ画面を開き  
↓  
全般タブ  
↓  
フォント欄  
↓  
右横の□ボタン(赤丸)をクリックします

文字設定画面が表示されますので「アジア諸言語用フォント」欄を変更します



OK ボタンをクリックします

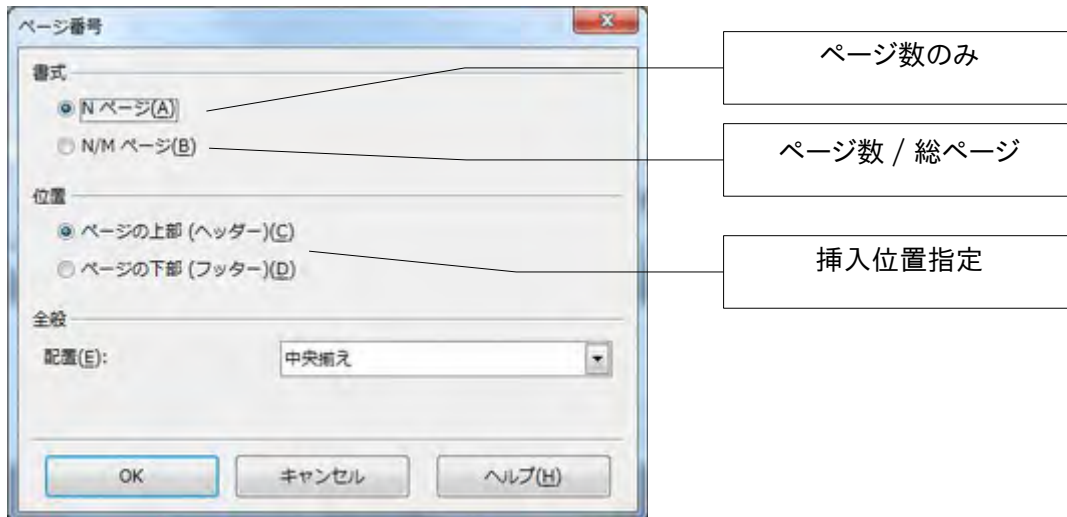
「レポート実行」で反映を確認できます

## 14. ヘッダーやフッターのページ数表示が正しく表示されないのですが？

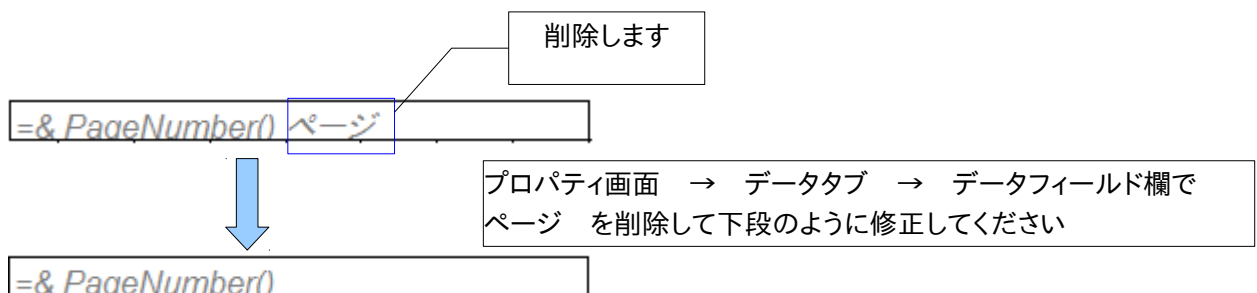
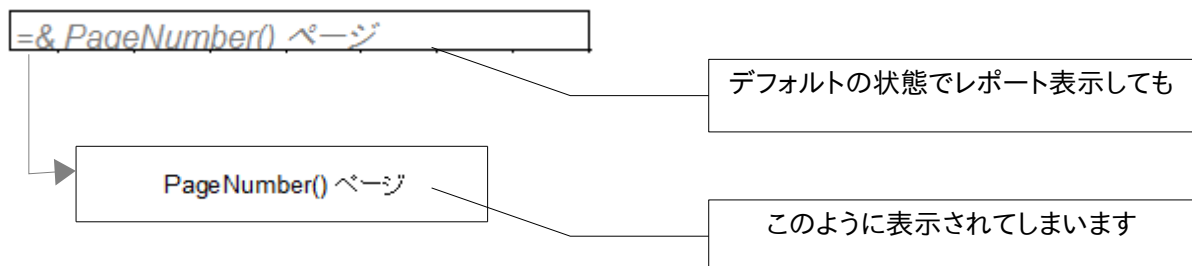
日付・時刻・ページ数はメニューから挿入することができます。しかしデフォルトの状態では正しく表示されませんので手修正してください(3.X系のみ?)。

【ページ数を挿入する例】

メニュー → 挿入 → ページ番号



上記の例ではヘッダーにページ数のみを中央揃えで挿入します



ページ数/総ページ の場合も同様に下段のように修正して利用します

`=& PageNumber() &/& PageCount()`

## 15. クエリーに計算式をセットするには？

フィールド	書籍名	単価	部数	決済方法	"単価" * "部数"
エイリアス					購入額
テーブル	tbl_meisai	tbl_meisai	tbl_meisai	tbl_meisai	
並べ替え					
表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
関数					
条件					
あるいは					

式

"単価" \* "部数"

項目名を"で囲みます

上記の例では単価×部数によって購入額を求めています

エイリアス:別名のこと(Accessでは式の前に:を入れて定義していた事項)

### 《ワンポイント》

mdb ファイルにリンク接続して運用している場合は“ではなく'で囲みます("で囲んでも自動的に'に変換されます)

## 16. クエリーで集計するには？

Accessの集計クエリーと同じ機能です。関数にGROUPを設定することで集計クエリーとして運用することができます。(表計算シートをリンクテーブルにしている場合は使用できません)。

	書籍名	単価	購入額計	部数計
	日経パソコンpro	1200	3600	3
	日経IT21pro	1000	2000	2
	実務で使えるLibreoffice	1000	1000	1
	導入からみるLibreoffice移行ガイド	1350	1350	1
	日経オープンソース	1200	3600	3
	日経ネットワークPro	1500	3000	2
	日経ITプロ	1350	1350	1

レコード	1	候補	7	
------	---	----	---	--

フィールド	書籍名	単価	購入額	部数
エイリアス			購入額計	部数計
並べ替え				
表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
関数	GROUP	GROUP	SUM	SUM
条件				
あるいは				

グループ項目

- 書籍名
- 単価

集計項目

- 購入額
- 部数

Accessでは集計クエリーを選択すると自動で集計がセットされますが、BASEでは手作業でGROUPを各項目にセットする必要があります。

## 17. クエリー内で文字列を結合するには?(Accessでは&で結合していた件)

Accessでは項目と項目を&で結合していましたが、Baseでは+を使って結合します。

"氏名" + "ふりがな"	CONCAT("氏名", "ふりがな")
テスト一郎てすと いちろう	テスト一郎てすと いちろう
テスト一郎てすと いちろう	テスト一郎てすと いちろう
テスト一郎てすと いちろう	テスト一郎てすと いちろう
テスト一郎てすと いちろう	テスト一郎てすと いちろう
テスト二郎てすと じろう	テスト二郎てすと じろう
テスト二郎てすと じろう	テスト二郎てすと じろう
テスト一郎てすと いちろう	テスト一郎てすと いちろう

結果

"氏名" + "ふりがな"	CONCAT("氏名", "ふりがな")
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

クエリーで指定

CONCAT関数を使って結合する方法もありますが、引数が3つ以上になるとエラーになります。CONCAT関数を利用して3つ以上の引数を使うときには入れ子にして運用します。

例) CONCAT("氏名",CONCAT("ふりがな","部数"))

CONCAT("氏名",CONCAT("ふりがな","部数"))
テスト一郎てすと いちろう2
テスト一郎てすと いちろう1
テスト一郎てすと いちろう1
テスト一郎てすと いちろう1
テスト二郎てすと じろう2
テスト二郎てすと じろう1
テスト一郎てすと いちろう1

入れ子で指定

CONCAT("氏名",CONCAT("ふりがな","部数"))
<input checked="" type="checkbox"/>

## 18. ファイルを開くと同時に特定のフォームを起動させるには？

Access では設定オプションで簡単に設定できましたが、Base ではマクロを「文書を開いた時」イベントに割り当てる必要があります。

表計算ソフト (Calc や Excel) のワークブック Open イベントに記述するマクロと同じイメージになります。

'記述するマクロ例 1

'##### 開始行 #####

```
Sub Auto_FormOpen( )
```

```
Dim ObjectType as Variant
```

```
Dim FormMei As String
```

```
ObjectType = com.sun.star.sdb.application.DatabaseObject.FORM
```

```
FormMei = "tbl_mainF1" '見かけのフォーム名(呼び名)
```

```
If ThisDatabaseDocument.FormDocuments.hasbyname(FormMei) Then
```

```
ThisDataBaseDocument.CurrentController.Connect()
```

```
ThisDatabaseDocument.CurrentController.loadComponent(ObjectType, FormMei, FALSE)
```

```
Else
```

```
MsgBox "指定フォームが見つかりません."& chr(13) & "フォーム名: " & FormMei & chr(13) & "フォームの存在を確認ください!",16, "エラーです"
```

```
End if
```

```
End Sub
```

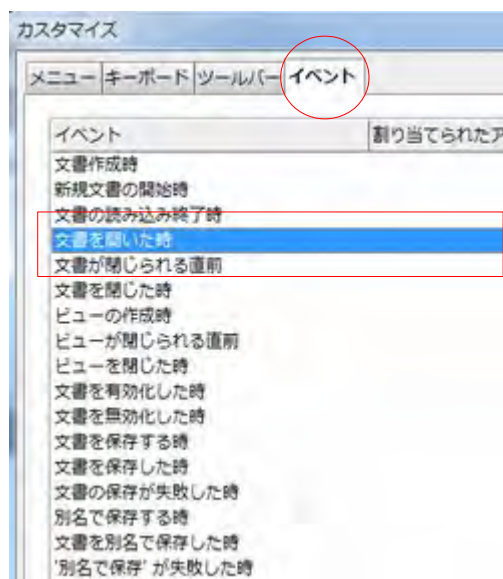
'##### 終了行 #####

フォーム名は 見かけのフォーム名 で指定する点に注意します

※18 ページ参照

「文書を開いた時」イベントの場所は

メニュー → ツール → カスタマイズ → イベントタブ



## 19. ボタンクリックでフォームを開く(閉じる)には?

マクロを作成しボタンの「実行時」イベントに割り当てます。

'記述するマクロ例(開く)

```
Sub FormOpen
  oDoc = ThisDatabaseDocument
  If oDoc.supportsService("com.sun.star.sdb.OfficeDatabaseDocument") = false Then
    Exit Sub
  End If
  oDoc.FormDocuments.getByNamed("フォーム名").open()
End Sub
```

見かけのフォーム名

'記述するマクロ例(閉じる)

```
Sub FormClose
  oDoc = ThisDatabaseDocument
  If oDoc.supportsService("com.sun.star.sdb.OfficeDatabaseDocument") = false Then
    Exit Sub
  End If
  oDoc.FormDocuments.getByNamed("フォーム名").close()
End Sub
```

## 20. ボタンクリックでレポートを開くには?

マクロを作成しボタンの「実行時」イベントに割り当てます。

'記述するマクロ例

```
Sub ReportOpen01
  oDoc = ThisDatabaseDocument
  If oDoc.supportsService("com.sun.star.sdb.OfficeDatabaseDocument") = false Then
    Exit Sub
  End If
  oDoc.ReportDocuments.getByNamed("レポート名").open()
End Sub
```

## 21. 変更内容を保存してファイルを閉じるには？

VBA の DoCmd.Quit と同じ用途で使えるのではないかと考えられます  
マクロを作成しボタンの「実行時」イベントに割り当てます。

'記述するマクロ例

```
Sub SaveAndClose
```

```
Dim ReturnV as integer
```

```
    If ThisComponent.isModified Then
```

```
        ReturnV = MsgBox ("変更内容を上書保存して閉じます" & chr(13) & "よろしいです  
か?",4+0+48,"確認しています")
```

```
        If ReturnV = 7 then
```

```
            exit sub
```

```
        Else
```

```
            ThisDatabaseDocument.store()
```

```
            ThisDatabaseDocument.Close(True)
```

```
        End if
```

```
    Else
```

```
        ReturnV = MsgBox ("変更はありません、画面を閉じます" & chr(13) & "よろしいです  
か?",4+0+48,"確認しています")
```

```
        If ReturnV = 7 then
```

```
            exit sub
```

```
        Else
```

```
            ThisDatabaseDocument.Close(True)
```

```
        End if
```

```
    End if
```

```
End Sub
```



## 22. テーブルやクエリーのデータを文字化けせずに Calc へ出力するには？

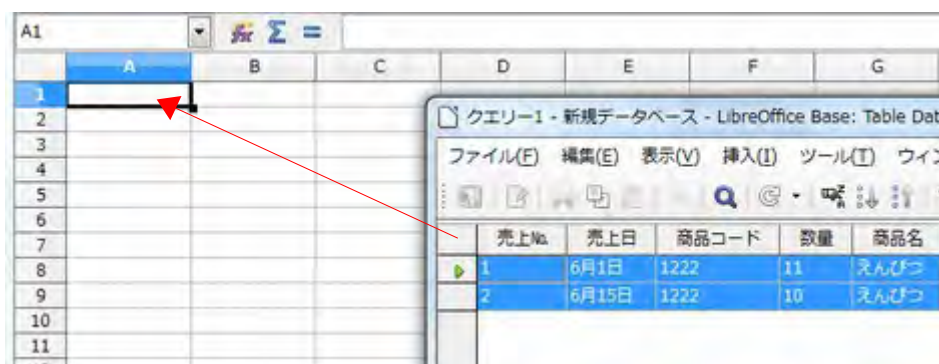
Base のテーブルやクエリーを Calc へ出力する方法として「コピー&貼り付け」を実行すると、日本語データが文字化けしてしまいます。

文字化けせずに出力するには、Base データを表示し Calc シートへ「ドラッグ&ドロップ」することで実現できます。

【コピー&貼り付け】売上日と商品名が文字化けしています

	A	B	C	D	E	F	G
1	売上No	売上日	商品コード	数量	商品名	単価	売上額
2	1	6月1日	1222	11	えんびつ	10	110
3	2	6月15日	1222	10	えんびつ	10	100
4							
5							

文字化けしないようにする為、ドラッグ&ドロップを実行します  
テーブルやクエリーの左スミをドラッグ&ドロップ



The screenshot shows the resulting Calc spreadsheet. The data is correctly displayed with Japanese characters. The table structure is identical to the one in the Base query window.

	A	B	C	D	E	F	G
1	売上No	売上日	商品コード	数量	商品名	単価	売上額
2	1	6月1日	1222	11	えんびつ	10	110
3	2	6月15日	1222	10	えんびつ	10	100
4							

## 23. xlsファイルをリンクテーブルとして利用するには？

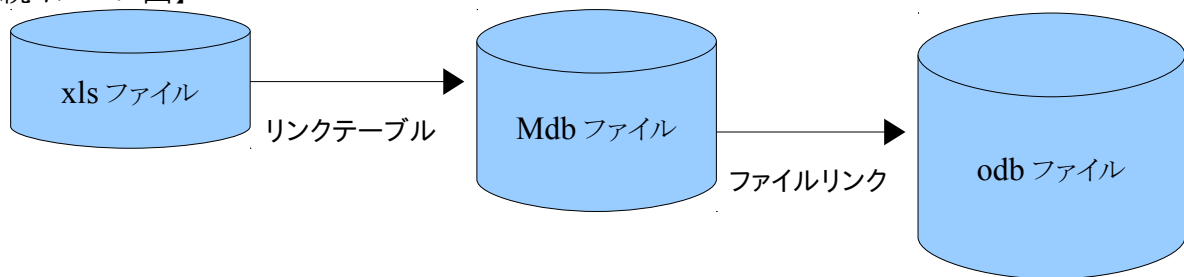
インポートコマンドを持たない Base では、外部データを手軽に利用する方法として表計算ファイルをリンクテーブルにする方法が利用されますが、xls ファイルなどの表計算ファイルを Base のリンクテーブルとして直接リンクした場合、クエリーで集計や関数を利用できません。

集計や関数を利用する為には ODBC を利用して接続する方法もありますが、あらかじめ範囲指定する必要があることから、ここでは、xls ファイルをリンクした mdb ファイルを odb ファイルでリンクする方法を紹介します。

mdb ファイルにリンクテーブルを作成しますので、表計算ファイルは Excel の xls 形式を利用して接続します。(ODS 形式ではありませんのでご注意ください)

4.0 系では、この方法で作成したレポートのデータ日付が 2 日ほど過去日付になる不具合が確認されています 3.6 系をご利用になるか、不具合が無くなったことを確認してください。  
※ 現在:レポート元クエリーの日付を +2 する方法で回避しています

### 【接続イメージ図】



リンクテーブル設定した mdb ファイルをリンクデータとして odb ファイルで利用すると、クエリーで集計や関数を利用できます。

### 《Point》

Base では、OpenBasic で記述したユーザー定義関数を利用することができません。クエリーで独自関数を利用して計算していたような場合は、あらかじめ表計算シート上で関数やセルを組み合わせさせて計算させておくと便利です。

また、odb ファイルのテーブルでは、データ保存に失敗しデータ消失のトラブルが発生する場合がありますが、xls シートを確実に保存することでデータ消失のリスクを回避することができます。

### 《Access を使わずに mdb ファイルを作成しリンクテーブルを設定する》

mdb ファイルを作成し xls ファイルをリンクする場合、Ms-Access を利用する方法が一番手軽に設定できますが、この方法では別途 Ms-Access を入手する必要があります。

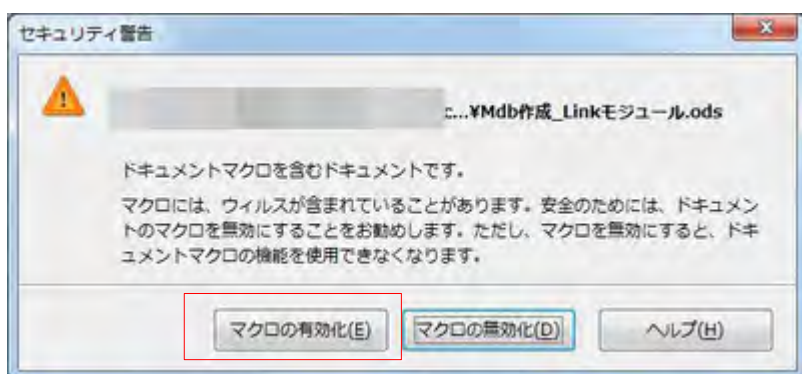
Ms-Access がインストールされた PC でセットアップするとは限らないことから、ここでは、Calc のマクロを利用して指定されたパスに mdb ファイルを作成し、作成した mdb ファイル内に xls ファイルのリンクテーブルを作成する方法で対応します。

利用する Calc ファイル名:Mdb 作成\_Link モジュール.ods

このマニュアルと同じ場所に公開されている ods ファイルです。マクロが設定されています。

利用するにはマクロのセキュリティを「中」以下に設定して下さい。

Mdb 作成\_Link モジュール.ods を W クリックします  
マクロの有効化を行ってください



フルパスでファイル名まで入力

① mdbファイルを新規作成します

	A	B	C	D	E	F
1						
2		<b>【mdbファイルを新規作成します】</b>				
3		ファイル作成先パスとファイル名をフルパスで入力してください				
4		《例》D¥test.mdb				
5			入力欄→	D:¥sinkimdbfile.mdb		
6						
7						
8						
9						

Mdb作成処理

入力欄にフルパスでファイル名を入力し、Mdb 作成処理ボタンをクリック

リンクテーブルを格納する mdb ファイル名

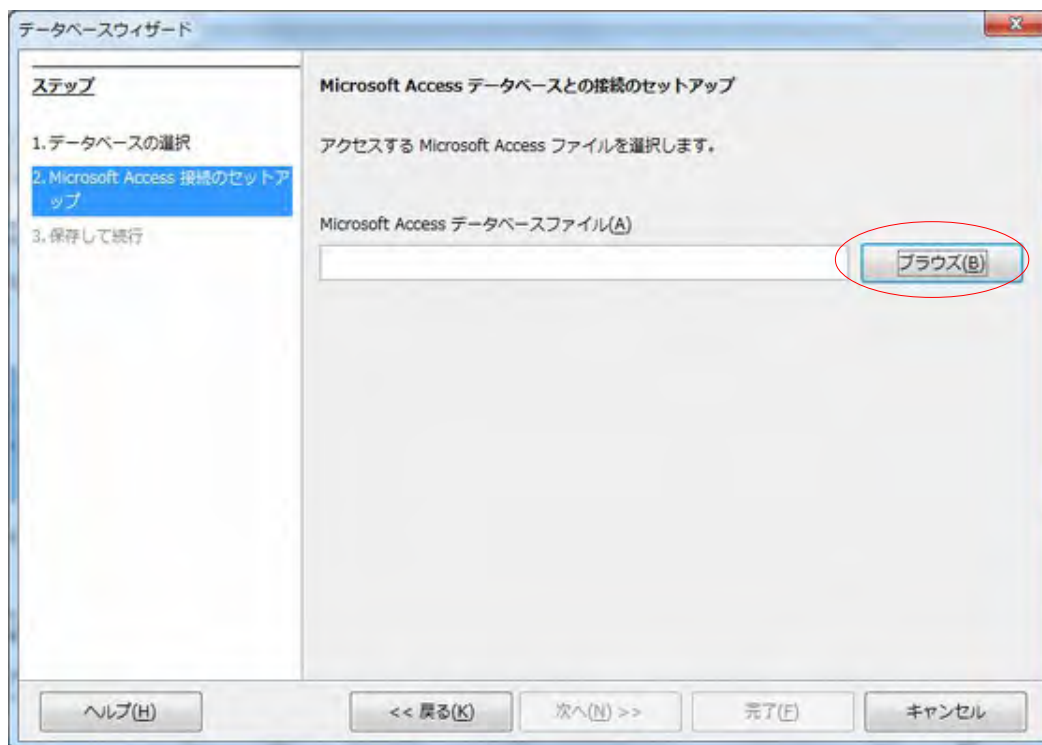
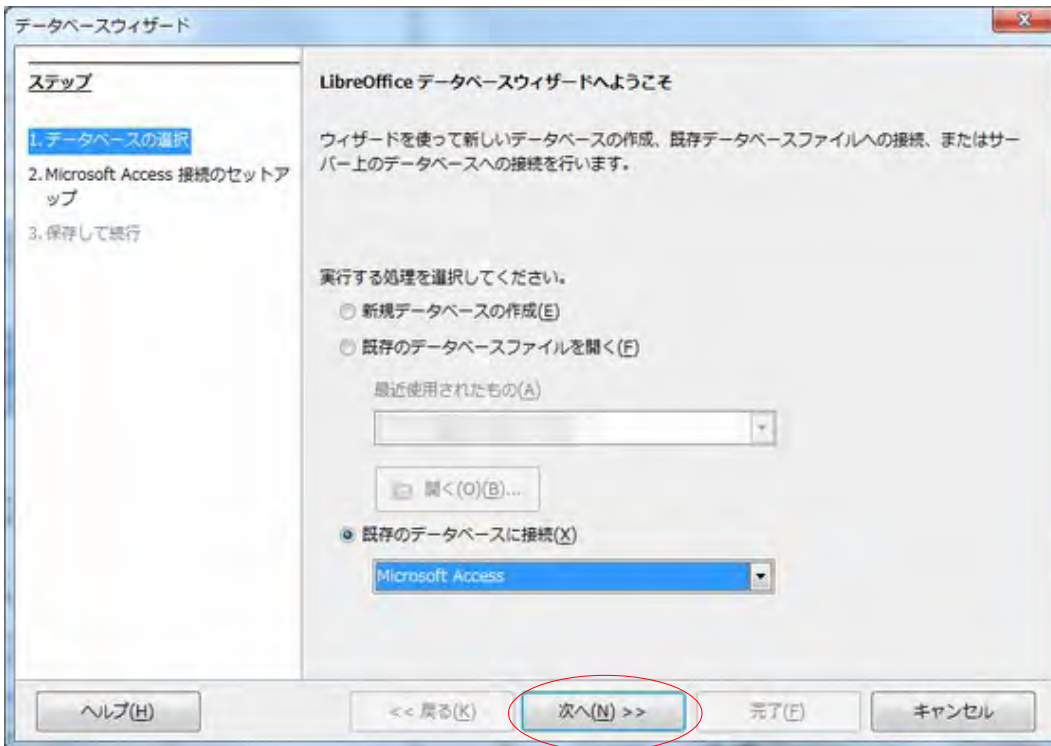
② mdbファイル内にリンクテーブルを作成します

10						
11		<b>【mdbファイル内にリンクテーブルを作成します】</b> リンクさせる表計算ファイルはxls形式です				
12		リンクテーブル作成先パスとファイル名をフルパスで入力してください				
13		《例》D¥test.mdb				
14		Mdbファイル名とパス	入力欄→	D:¥sinkimdbfile.mdb		
15						
16	テーブル1	テーブル名	入力欄→	MT担当者データ		
17		Excelファイル名	入力欄→	D:¥基本情報データ.xls		Link_Table作成1
18		ExcelのSheet名	入力欄→	担当者		
19						
20	テーブル2	テーブル名	入力欄→	MT得意先データ		
21		Excelファイル名	入力欄→	D:¥基本情報データ.xls		Link_Table作成2
22		ExcelのSheet名	入力欄→	得意先		
23						
24	リンクテーブル数が多い場合は上記処理を繰り返してください					
25						

リンクテーブル名

テーブル名・Excel ファイル名・Sheet 名を入力後、Link\_Table 作成ボタンをクリックします

- ③ Baseを使って作成した mdb ファイルへ接続します  
既存のデータベースに接続→Microsoft Access を選択



ブラウズをクリックし、リンクしている mdb ファイルを選択します

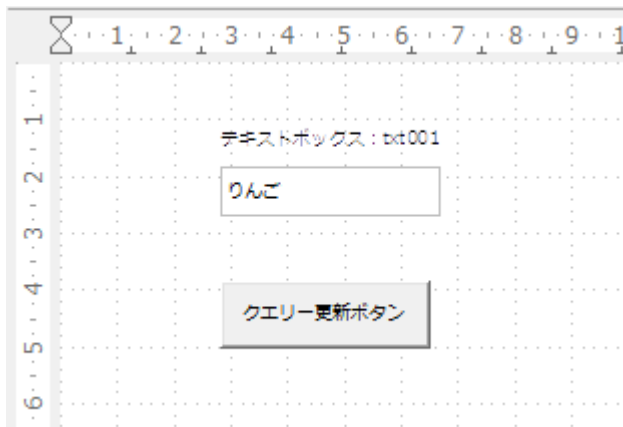
## 24. フォームに入力された値をパラメーターとしてクエリーに反映させるには？

Base はフォームの値をクエリーのパラメーターとして反映させる機能を持っていません。

Access の場合は作成済クエリーにフォームの入力値を渡して結果を得ていましたが、Base ではフォームの入力値を反映させた SQL を発行し、入力値が反映されたクエリーを再作成します。

	テーブルナンバー	項目A	項目B	日付
	0	りんご	なし	2004-04-01
	1	みかん	すいか	2005-04-01
	2	いちご	メロン	2006-04-01
	3	くり	いちじく	2006-04-01
	4	キウイ	ぶどう	2007-04-01
	5	パパイヤ	マンゴー	2015-03-19
	<オートフィールド>			

[テーブル名:TABLE\_A1]



[フォーム名:見かけの名前→Form001 本名→Formhonmei]

テキストボックス名:txt001

マクロ実行毎にクエリーが再作成されます

モジュール:「クエリー更新ボタン」の実行時イベントにマクロをセット

```
Sub qrykousin001
```

```
    oDoc = ThisComponent.getParent()
```

```
    oAConnection = oDoc.CurrentController.ActiveConnection
```

```
    oDraw = ThisComponent.getDrawPage()
```

```
    oForm = oDraw.getForms().getByName("Formhonmei")
```

```
    oFilter = "SELECT * FROM ""TABLE_A1"" WHERE ""項目 A"" = " & "" &
```

```
oForm.getByName("txt001").text & "";"
```

```
    oQueries = oAConnection.getQueries()
```

```
    If oQueries.hasByName("Query001") Then
```

```
        oQuery = oQueries.getByName("Query001")
```

```
        oQuery.command = oFilter
```

```
    Else
```

```
        msgbox "雛形となるクエリーがありません。" & chr(10) & chr(10) & "Query001 という名のクエリーを作成してください"
```

```
        Exit Sub
```

```
    End if
```

```
End Sub
```

## 《Base マニュアル作成にあたって》

データベースソフトは表計算やワープロと違い、画面を開いてもすぐに具体的な使い方が判らない事やデータベース自体を未体験な人が多い事もあって、Office ソフトの中でも特に敷居の高い存在だと思います。

また、これまでデータベースを利用する際には、別途ソフトを準備する必要が多かったこともデータベースが敬遠された要因の一つになっているのかもしれません。

LibreOffice にはデータベースソフト(Base)が標準装備されていますので、インストールするとすぐにデータベースを利用できるようになっています。

本マニュアルは入門編と実践編の2部構成とし、入門編では主に「データベースとは何か?」・「データベースの基本的な考え方」について、実践編では「Ms-Access で処理していた内容を Base で実現するにはどうすればよいのか?」を中心に解説しました。

同じデータベースソフトということで Ms-Access と比較される Base ですが、現時点では Access の処理を全て Base に置き換えることは難しいと言わざるを得ません。

また、機能が足りないことや不具合(バグ)が残っていることも認識して利用しなければなりません。それでも Base には Calc(表計算)や Writer(ワープロ)には無い、データベースソフトとしての魅力が詰まっています。

いままでデータベースに触れたことが無いという方は、Base を使ってデータベースソフトの基本に触れデータベースを体験してみてください。

Access 等のデスクトップデータベースをバリバリに使ってこられた方は Access と Base の違いを認識し、Calc 以上 Access 未満へ対処する選択肢の一つになるかどうかを確認してみてください。本マニュアルが皆様の OSS データベースソフト(Base)の入り口となれば幸いです。

## 【ありがとうございます】

本マニュアルで紹介した処理手順及び利用している LibreBasic コードは、LibreOffice 関連 Web サイトならびに LibreBasic/OpenBasic 解説 Web サイトの掲載情報を参考に適宜修正・追加し作成しました。

各 Web サイトへ情報を提供して下さった方々、Web ページ作成者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

平成 25 年 7 月 30 日

JA 福岡市:リスク管理課